

《研究ノート》

夕張 調査研究ノート(Ⅰ)——夕張における 中小零細事業者の経営実態と課題

川 村 雅 則・河 西 勝

はじめに

本稿は、2008年の本学の地域研修授業で行った、夕張での事業者調査の結果をとりまとめたものである¹。

2007年3月に夕張市は財政再建団体に指定された。夕張の財政破綻をめぐっては、夕張市が不適切な会計操作を行っていたということもあり、市の責任を厳しく追及する論調が多かったように思われる。だが、歴史的にこの問題を考えるならば、背景には、石炭から石油へというエネルギー政策の転換という問題がある。また、炭鉱資本が夕張から撤退する際の企業の責任の取り方や、炭鉱資本からの買い取りを余儀無くされた炭鉱住宅やインフラの整備費用が夕張財政に大きくのしかかったことにも目を向けなければなるまい。あるいは、観光産業への過剰な投資というよく指摘される問題についても、疲弊する自治

体に対して全国各地でリゾート開発をあおった国の政策も視野にいて検証されなければなるまい。そしてまた、夕張が財政再建にまったく取り組んでいなかったかといえば、そうではない。しかしながら、「三位一体改革」の名のもとで実施された地方交付税の減額が、夕張の財政赤字をさらに悪化させた。このことが夕張市の財政に最後のとどめをさすことになったことも、歴史的問題として決して無視できない点である。以上の意味で、この財政破綻の問題に関しては夕張市の責任追求だけでことたれりとするわけにはいかない²。

さて、夕張市がなぜ財政破綻したかを問う作業と同様に、夕張の再生を考える作業も、夕張の実態にもとづきながら進められなければならない。単に、決められた期間内で夕張市の財政赤字を黒字にすればよいという話ではない。文字通り、夕張の再生が図られなければならない。市民に過大な負担を求め、人口流出に拍車をかけている現行の財政再建計画は、最終的に夕張自体を消滅させかねないという問題をはらんでいる。カジノや自衛隊の誘致という受け入れがたい構想が現地で浮上しているのも、夕張がそこまで追い詰めら

1 研修は、河西勝、西村宣彦、川村雅則（以上、北海学園大学）、木下武徳（北星学園大学）のゼミの参加で行われた。西村・木下ゼミは、地域住民調査を担当し、河西・川村ゼミは事業者調査を担当した。参加学生の氏名は次のとおり。河西ゼミⅠ・Ⅱ（五十嵐直美、太田佑美、小山恵美、佐野徳馬、志賀麻衣、杉浦真法、高岡伶、平岡貴志、松本花奈子、川守田裕太、藤原邦弘）、川村ゼミⅠ（竹田祐也、黄金知広、菊池悠、島崎なつみ、塘野良治、松田康平、宮川幸恵、野々川華奈、村川和優、小野祐樹）。

2 夕張財政破綻をめぐり問題や背景については、保母ら（2007）を参照。また、財政破綻前後の夕張の状況については、朝日新聞北海道支社報道センター（2008）、読売新聞北海道支社夕張支局（2008）などを参照。

れていることを示すものといえよう。繰り返しになるが、あくまで実態にもとづいて再生の道筋が検討されなければなるまい。

以上の問題意識をもって私たちは、2008 年 8 月下旬の 3 日間、住民を対象にした生活・健康調査と、事業者を対象にした事業経営・暮らしに関する調査を夕張で行った。本稿は、そのうち事業者調査の結果を報告するものである。

第一章 財政再建下の夕張と、中小企業の全国的な動向

調査結果を報告する前に、財政再建下の夕張と、わが国の中小企業のおかれている状況について簡単にまとめておく³。

かつて最盛期で 11 万 7 千人にも達した夕張市の人口は、炭鉱の閉山・合理化そして炭鉱資本の撤退によって、減少し続けてきた。そして、夕張市の財政破綻を機にその人口流出は予想をさらに超える速さで進んでいる。夕張市職員の退職も予想を上回る規模であった。残された市民には高齢者が多く、65 歳以上人口だけで 42.9%、60 歳にまで幅を広げると全体の半分を超える (51.2%)。

財政再建に向けた取組みは、行政サービスの縮小と、住民負担の増大をもたらしている。夕張市の地形は南北に長く、夕張川に沿って集落が形成されているという特徴を有しており、そのためもとと行政サービスの提供に際して財政的な負担は大きかった。また、多額の累積赤字を抱えていた市立総合病院は医療センターに変わり、介護関連のサービスも縮小している。学校の統廃合も予定されている。

こうした行政サービスの縮小に対して、逆に、住民の経済的負担は増加し、市民税や公

共料金・施設利用料などが引き上げられた。人口流出が進めば新たな負担も避けられず、そのことがまた人口流出を生み出すという悪循環が懸念される。

さて、中小企業は、わが国経済の主要な担い手であり、また、国民多数の就業・雇用の場として圧倒的である。その中小企業の経営は一貫して厳しい状況下にある⁴。中小企業の廃業率は開業率を上回り、中小企業数は減少し続けている。経営状況も厳しく、利益率は低迷し、大企業との差は拡大している。わが国経済は、長期にわたる景気回復という指摘とは裏腹に、国民にはその実感がなく、勤労者の所得は減少し続け、内需は伸び悩んできた。そこに、サブプライム住宅ローン問題、原油価格高騰、そして建築基準法の改正で建築確認・検査が強化されたことともなう建築着工件数の減少等が重なり、わが国経済は未曾有の不況に突入し、現在に至っている。今後、民間消費需要は低迷し、そこに依存する中小企業の経営は、ますます厳しい危機的状況に追い込まれることになるだろう。こうしたときこそ中小企業に対する手厚い支援が求められるわけだが、中小企業基本法の「改正」に象徴されるとおり、中小企業政策の転換⁵を図ってきたわが国で、果たして、実効性と即効性のある政策が可能なのか。

最後に、夕張市の事業者統計によって概況をみておく。夕張市の事業者数の減少は著しい (表 1-1)。民営事業者でみると、とりわけ個人では平成 3 年から 16 年の間に事業

4 以下は、中小企業庁 (2008) による。

5 もちろん、中小企業基本法の「改正」には評価すべき点もみられるが、法「改正」によって、中小企業を保護すべき対象とみなし必要な策を講ずる立場から、ベンチャー企業的なものの支援へと政策の基本的方針が変更され、中小企業の経済的社会的制約による不利の是正というスタンスが後退した点は、実態を無視したものと言わざるを得まい。

3 夕張に関する統計数値は、夕張市「夕張の概況説明」等による。

表 1-1 夕張市内の事業所数及び従業者数の推移

単位：事業所，人

	総数		民営						国営公営 公共企業体	
			個人		法人		法人でない団体			
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
平成 3 年	1257	8062	618	1655	475	4744	34	87	130	1576
8 年	1056	6624	495	1221	425	4025	28	47	108	1331
11 年	837	4785	433	1030	380	3702	24	53	—	—
13 年	881	5831	387	981	365	3613	23	62	106	1175
16 年	701	4050	334	781	347	3213	20	56	—	—
増減 (対 3 年比)			54	47	73	68	59	64		

注：平成 11 年，16 年は簡易調査（民営事業者のみ対象）のため，国営公営公共企業体は集計されない。

資料：夕張市総務部（事業所・企業統計調査）。

出所：夕張市の統計より。

所数も従業者数もほぼ半減している。あわせて，産業別の就業人口も掲載しておく（表 1-2）。なお今回の調査では，夕張の基幹産業である農業⁶を割愛した。メロン栽培に

特化し，比較的めぐまれた状況にある夕張農業については，別個の調査研究が必要とされるところ考えたからである。

第二章 事業者調査の概要

2008 年 8 月 26 日から 28 日の 3 日間，夕張市内の事業者を対象に調査を行った。なお前章では，中小企業一般の状況を概観したが，私たちが調査の対象としたのは，経営基盤がさらに脆弱な⁷小零細事業者が中心である⁸。

夕張商工会議所のご協力で，会員名簿を頂

	単位：人，%					
	平成 2 年		17 年		変化 （対 2 年比）	
第一次産業	1043	12.1	744	13.2	71	
農業	854	9.9	716	12.7	84	
林業	189	2.2	28	0.5	15	
漁業	0	0.0	0	0.0		
第二次産業	2265	26.3	1261	22.4	56	
鉱業	104	1.2	4	0.1	4	
建設業	1103	12.8	559	9.9	51	
製造業	1058	12.3	698	12.4	66	
第三次産業	5296	61.6	3632	64.4	69	
電気・ガス・熱供給・水道業	100	1.2	45	0.8	45	
運輸・通信	600	7.0	229	4.1	38	
卸売・小売業・飲食	1618	18.8	779	13.8	48	
金融・保険業	150	1.7	47	0.8	31	
不動産業	9	0.1	20	0.4	222	
サービス業	2245	26.1	2176	38.6	97	
公務	574	6.7	336	6.0	59	
その他	0	0.0	0	0.0		
合計	8604	100.0	5637	100.0	66	

資料：国勢調査より。

出所：夕張市「夕張の概況説明」より。

6 夕張の農家戸数は 177（内訳は専業 139，第 1 種兼業 12，第 2 種兼業 26），農家人口 790 人，農業従事者 535 人となっている。177 の農家戸数のうち，メロン組合に所属する戸数は 150 である。以上は，夕張市「夕張の概況説明」より。

7 例えば，働いても生活の維持が困難ないわゆるワーキング・プアは雇用労働者（非正規）だけにみられるものではなく，事業主にも多い。総務省「平成 14 年 就業構造基本調査」によれば，事業主で年収が 200 万円未満のものは男性で 39.5%，女性で 77.4%，300 万円未満にまで幅を広げると男性では 57.8%，女性では 87.6%に及ぶ。なお，小零細事業者の経営や生活の実態等については，例えば，全国商工団体連合会の調査結果などを参照。

8 中小企業基本法によれば，従業員（常時雇用する従業員）規模でみる中小企業とは，①製造業・建設業・運輸業・その他の業種（②～④を除く）では 300 人以下，②卸売業 100 人以下，③サービス業 100 人以下，④小売業 50 人以下で，そのうち小規模企業・零細企業は，①については 20 人以下，②～④については 5 人以下となっている。中小企業庁（2008）より。

戴し、その名簿を使って、事前に会員(181事業者)に調査票を送付し(留め置き)、上記の3日間で各事業者をまわり、調査票の回収ならびに聞き取り調査を行った。不在で調査票が回収ができなかったところもあれば、回収と聞き取りのいずれか、あるいはその両方ともができたところもある。

但し、聞き取り調査は主に学生が行ったため、聞き取りの成果にはばらつきがある(聞き取りそのものができなかったというだけでなく、聞き取った内容を十分に記録できなかったという問題もある)。合わせて、例えば、訪問した事業者の中には事実上の廃業状態(仕事をほとんど行っていない)にあるというケースもあったが⁹、そうした、それ自体が有益な情報も、必ずしも記録・集約されたわけではないこともお断わりしておく。

後日に郵送されてきた分を含め、回収された回答は104件である。現地で事業者から直接聞き取った内容は資料1に、調査票の自由記述部分は資料2に、それぞれまとめた。資料1にも資料2にも、回答者の業種と番号をつけた(例、小売001/【001】、小売)。但しそれぞれにつけた番号は同じ事業者であることを意味しない(便宜的につけたものである)。個々の事業者が特定されるのを避けるという配慮から、聞き取った内容等については若干の加工を行ったり、数値的な部分は省略するなどした。

あわせて、単純集計とクロス集計データを資料3にまとめた。クロス集計は、経営形態

別、事業主の年齢別、業種別に行った。但し、業種別のデータはサンプル数が比較的多いものに限定した。

なお、無回答は除いて計算しているため設問によって母数が異なる。

聞き取り調査のようすを以下の写真で示しておく。



第三章 事業者調査の結果

1. 高齢化する事業者、小売業が4割、小零細規模が中心

今回、調査に回答いただいた104件の事業者の基本属性等をまずみておく。性別では男

9 例えば私(川村)自身が同行した中でも次のようなケースがあった。運送業を営んでいるはずであったが、仕事がないために事実上の廃業状態であり、現在は、夏の間はストープの分解掃除、冬は除雪(市からの委託と一般の両方)という別の事業を行っている。とはいえ、夏も冬も仕事は多くないし、間には仕事が無い。商工会議所には加入しているが事実上名前だけであり、調査にも回答しようがない、というケースである。

表 3-1 回答事業者の業種、従業員の使用状況・使用人数

単位：事業者，％

		全体		経営形態別			
		103	100.0	個人経営		法人経営	
				43	100.0	60	100.0
a. 業種	製造	8	7.8			8	13.3
	食品製造（販売含む）	6	5.8	3	7.0	3	5.0
	建設	11	10.7	1	2.3	10	16.7
	運送	3	2.9			3	5.0
	小売	44	42.7	17	39.5	27	45.0
	飲食	13	12.6	11	25.6	2	3.3
	理美容	5	4.9	5	11.6		
	自動車整備	4	3.9	2	4.7	2	3.3
	その他	9	8.7	4	9.3	5	8.3
		102	100.0	44	100.0	58	100.0
b. 従業員の有無	使用していない	24	23.5	18	40.9	6	10.3
	家族のみ使用	21	20.6	14	31.8	7	12.1
	家族以外のみ使用	17	16.7	2	4.5	15	25.9
	家族も家族以外も使用	40	39.2	10	22.7	30	51.7
		102	100.0	44	100.0	58	100.0
c. 使用している 従業員の人数	0人	24	23.5	18	40.9	6	10.3
	1人	20	19.6	13	29.5	7	12.1
	2人	11	10.8	5	11.4	6	10.3
	3, 4人	15	14.7	5	11.4	10	17.2
	5～9人	16	15.7	2	4.5	14	24.1
	10人以上	16	15.7	1	2.3	15	25.9

性が8割強(82.4%)で、残りの2割弱(17.6%)が女性である。年齢構成は高齢に偏っており、60歳以上で6割(59.8%)を占める。世帯構造でもっとも多いのは配偶者との二世帯(45.5%)で、高齢層ほどそのウェイトが高い¹⁰。

表3-1のとおり、まず、業種で最も多かったのは小売業(42.7%)で、ついで飲食業(12.6%)、建設業(10.7%)の順である(但し、製造業は食品製造とそれ以外とを分けて表記しているが、合計すると13.6%で二番目に大きい)。なお、炭鉱産業の全盛期時代の思い出や夕張の栄枯盛衰が聞き取りでも語られたことに示されるように、総じて回

答事業者の事業年数は長く、例えば、30年以上でみても63.0%、40年以上でみても40.0%に及ぶ¹¹。

次に、経営形態は、個人経営が42.3%で、法人経営が残りの57.7%である。個人経営では、従業員(家族従業員を含む)を使用していない割合が大きく(40.9%)、逆に、法人経営の場合には家族も家族以外の従業員も使用している割合が大きく(51.7%)、また使用人数も5人以上が半数を占めている。なお個人経営も法人経営も小売業が最も多いが、ついで多いのは、前者では飲食業(25.6%)であるのに対して、後者では建設業(16.7%)や製造業(13.3%。食品製造は除く)となっている。

なお、働き方については、就業時間が長い

10 以上について詳細を記すと、(1)年齢は、「50歳未満」10.8%、「50歳代」29.4%、「60歳代」31.4%、「70歳以上」28.4%。(2)世帯構造は、「単身」10.9%、「配偶者のみ」45.5%、「配偶者と子ども」19.8%、「配偶者と親」10.9%、「親のみ」3.0%、「配偶者と子どもと親」4.0%、「その他」5.9%。

11 10年刻みで事業年数をみると、「10年未満」8.0%、「～20年未満」9.0%、「～30年未満」20.0%、「～40年未満」23.0%、「～50年未満」17.0%、「～60年未満」17.0%、「60年以上」6.0%。

という、自営業者一般に共通した特徴がみられた。雇用労働者に比べると事業者は裁量の余地がある働き方ができるとはいえ、1日の就業時間が10時間を超える事業者は半数(48.4%)に達し、また月の休日が2日以下である事業者は3割(29.2%)を占めた(詳細は資料3を参照)。

2. 経営の困難, 背景にある人口減少等

財政再建下での事業経営状況はどうか(表3-2)。第一に、夕張以外で事業を行っていたり夕張以外に販路・顧客をもっているというケースを除くと、聞き取りでも口々に語られたとおり、経営形態にかかわらず経営は

総じて厳しいといえよう。すなわち、現在の経営状況を悪い(「やや悪い」「悪い」の合計)と回答している事業者は7割に及び、第二に、財政再建団体入りが表明された2006年以前からの売上の変化をみても、回答事業者の3割が、3割を超える売上減を経験している。「増加」と「横ばい」を合わせてもわずか1割強にとどまる。

もっとも、第三に、「昨年」の年間の売上額や所得の規模については、経営形態によって異なる。とりわけ個人経営では、どちらも小さく、「昨年」の所得が200万円未満という回答が半数を占め、300万円までひろげると全体の約3分の2を占める(法人経営を含

表3-2 現在の経営状況, 売上の変化, 昨年の売上高・所得, 消費税の支払い状況

単位: 事業者, %

		全体		経営形態別			
		98	100.0	42	100.0	56	100.0
a. 現在の経営状況	良い	1	1.0	1	2.4		
	やや良い	3	3.1	2	4.8	1	1.8
	そこそこ	26	26.5	11	26.2	15	26.8
	やや悪い	23	23.5	9	21.4	14	25.0
	悪い	45	45.9	19	45.2	26	46.4
		98	100.0	41	100.0	57	100.0
b. 売上の変化 (対比2006年以前)	増加	3	3.1	2	4.9	1	1.8
	横ばい	10	10.2	3	7.3	7	12.3
	1割以内の減	13	13.3	9	22.0	4	7.0
	3割以内の減	43	43.9	14	34.1	29	50.9
	5割以内の減	10	10.2	5	12.2	5	8.8
	5割超の減	19	19.4	8	19.5	11	19.3
	(再掲) 3割超の減		29.6		31.7		28.1
		93	100.0	40	100.0	53	100.0
c. 昨年の年間売上 (受注) 高	500万円未満	15	16.1	15	37.5		
	～1000万円未満	14	15.1	10	25.0	4	7.5
	～3000万円未満	19	20.4	6	15.0	13	24.5
	～5000万円未満	16	17.2	6	15.0	10	18.9
	～1億円未満	8	8.6	2	5.0	6	11.3
	1億円以上	21	22.6	1	2.5	20	37.7
		86	100.0	40	100.0	46	100.0
d. 昨年の所得 (利益)	200万円未満	32	37.2	20	50.0	12	26.1
	200～300万円未満	12	14.0	6	15.0	6	13.0
	300～500万円未満	21	24.4	10	25.0	11	23.9
	500～1000万円未満	14	16.3	1	2.5	13	28.3
	1000万円以上	7	8.1	3	7.5	4	8.7
			51.2		65.0		39.1
		82	100.0	36	100.0	46	100.0
e. 消費税の転嫁状況	完全にできている	40	48.8	13	36.1	27	58.7
	部分的にできている	27	32.9	14	38.9	13	28.3
	全くできていない	15	18.3	9	25.0	6	13.0

む全体でみても、所得が300万円未満は約半数を占める)。

しかも第四に、個人経営の場合には、消費税の転嫁が困難であり、完全に転嫁できているのは3分の1強にとどまっている(法人経営では6割弱)。

さて、その経営難の背景には何があるのか。回答が比較的多い業種についてもみてみた(表3-3)。やはり第一は、聞き取りでも異口同音に聞かれたとおり、(イ)顧客(人口)の減少である。小売業や飲食業では9割を超えている。つぎに、(オ)燃料など経費の値上がりや(エ)原材料や仕入れの高騰が大きい。そして、(ア)消費・需要の減少である。

聞き取りの結果等もふまえて、業種別に経営難の背景をみると、小売業では、人口減や消費控えに加えて、栗山町など近隣地域の大型量販店へ消費者が流れていること、またそういった店との仕入れ価格競争の激化がある。さらに、観光客の減少も指摘されていたほか、「道東自動車道の開通でさらに客が減るのではないか」という不安の声も聞かれた。

飲食業でも、やはり人口減や消費控えがあるが、加えて大きいのは、原材料や燃料の高騰である(ともに8割強)。そして、建設業では、経費の値上がりにもかかわらず(ウ)発注単価の切り下げという問題が経営難の背

景にある。需要減少に関しては、財政再建のため市発注の公共工事が急減したことや、ダム建設が地元に還元されていないことを指摘する声も聞かれた。これらの結果について、聞き取りの結果などもあわせて紹介する(以下、同様)。

●製造006：和洋菓子店。最近、使用する原材料のほとんどが値上がりしている。小麦、小豆、バター、包装紙等。特に小麦とバターはたくさん使うので、値上げは厳しい。「上がらないのは売上だけ」。材料の値段が上がっても価格転嫁はできない。なおさら客が来なくなるから。配達もしているので、原油高も大変。毎月赤字。店だけでは食べていけないので、1日4時間のアルバイトを別に行っている。売上減は人口の減少によるところが大きい。

●建設003：水道工事。お客が減って収入も減。最盛期には7人いた従業員も減らし、今では家族経営。人口減の先が見えなくて不安。跡取りの目処も立たず。

●小売003：経営難。人口減の影響が大きい。特に、近くの公務員宿舎に住んでいたひとたちが退職して宿舎を出て行ったことの影響が大きい。商売は基本的に自分一人で行っているが、別の仕事をしている息子がたまに手伝ってくれている。常連はタバコをかうお客さんぐらい。

●小売005：酒・たばこ・魚介類を取り扱っている。9時から19時までの営業。事業を営んで30年程に

表3-3 経営難の背景 単位：事業者、%

	全体		業種別					
			小売		飲食		建設	
	98	100.0	43	100.0	13	100.0	10	100.0
(ア) 消費・需要の減少	52	53.1	31	72.1	5	38.5	4	40.0
(イ) 顧客(人口)の減少	80	81.6	40	93.0	12	92.3	5	50.0
(ウ) 発注単価の切り下げ	13	13.3	2	4.7	1	7.7	6	60.0
(エ) 原材料や仕入れの高騰	41	41.8	14	32.6	11	84.6	4	40.0
(オ) 燃料など経費の値上がり	56	57.1	17	39.5	11	84.6	7	70.0
(カ) 不公正な契約の強要								
(キ) 業者間のダンピング	15	15.3	6	14.0			2	20.0
(ク) 業者の経営努力の不足	6	6.1	6	14.0				
(ケ) その他	1	1.0	1	2.3				

なる。家族経営。パート3名。近所の住民がどんどんいなくなり、客が減った。後継者もいないので自分の代で閉めると決めている。仕入れ高の影響もある。昨年の売上と比べて今年は急に3割程度減少している。子どもは少なく、客は高齢者ばかり。

●小売010：財政再建団体に転落して以降、顧客数は3分の1まで減少。売上も3、4割減。現在も減少し続けている。お客さんのほとんどが高齢者になったため、商品も高齢者向けになってきている。国民年金だけでは生活できない。生活のために営業を続けなければならない。食事は、お店のものを食べて生活している。このお店を誰かに継がせる気はなく、自分の代で終わり。原油高・原材料費の高騰や税金の上昇が、経営と生活の両面に負担を強いている。

●飲食002：肉の値段が上がっている。財政破綻して客が減って売上も3割以上落ちた。お客さんの数はその日によって全然違う。10組来る時もあれば、ゼロのときも。この地区は人口が多い方なのだが。客単価も下がっている。焼肉屋はあんまりお年寄り

が来ないので、若い人がいなくなって大変。

●飲食003：人口はどんどん市外へ流出してしまった。夕張最後の炭鉱が撤退したところに開業したが、まさか市の財政が破綻するとは予想外だった。店は20時閉店だが、実際には19時で閉めることがほとんど。以前は市の職員によく利用されていたが、市のリストラもあり、お客さんは減った。現在は地元のお客さんよりも、マスメディアを通じて夕張のことを知った市外のお客さんが多くなった。原油高の影響はあるが、メニューの値段は変えないように頑張っている。

●飲食007：財政再建団体入り後、団体客だった市の職員が減り、また人口流失もあり、売り上げ、利益は半分程度まで落ち込んでいる。加えて、原油・原材料・仕入れの高騰と、客のお財布の紐がたくなるという点でも経営難。

3. 事業継続の困難、廃業も視野に

経営状況を確認した上で、事業の継続意

表3-4 借入金の有無、残高、借入先及び返済状況

単位：事業者、%

		全体		経営形態別			
		98	100.0	43	100.0	55	100.0
a. 借入金の有無	ない	49	50.0	27	62.8	22	40.0
	ある	49	50.0	16	37.2	33	60.0
		41	100.0	13	100.0	28	100.0
b. 借入金の残高	200万円未満	6	14.6	6	46.2		
	～500万円未満	11	26.8	4	30.8	7	25.0
	～1000万円未満	10	24.4	2	15.4	8	28.6
	～3000万円未満	8	19.5	1	7.7	7	25.0
	～1億円未満	5	12.2			5	17.9
	1億円以上	1	2.4			1	3.6
		48	100.0	16	100.0	32	100.0
c. 借入先（複数回答可）	自治体の融資	1	2.1			1	3.1
	国民生活金融公庫	30	62.5	12	75.0	18	56.3
	都市銀行	1	2.1			1	3.1
	地方銀行	9	18.8			9	28.1
	信用金庫・信用組合	21	43.8	6	37.5	15	46.9
	サラ金・商工ローン・クレジット	2	4.2	2	12.5		
	その他	6	12.5	1	6.3	5	15.6
		48	100.0	16	100.0	32	100.0
d. 借入金の返済状況	順調に返済している	14	29.2	2	12.5	12	37.5
	苦しいがなんとか返済している	28	58.3	12	75.0	16	50.0
	条件を変更して返済している	2	4.2			2	6.3
	滞っている	4	8.3	2	12.5	2	6.3

志等をみていこう。まず金融面はどうか(表3-4)。すなわち、中小企業は大企業と比べ、自己資本比率が低いいため、金融機関からの借入に依存せざるをえない状況にあるが、本調査結果では、個人経営ではそもそも借入れが「ない」という回答が7割を占め、借入れがあってもその額も小さいという結果が得られた(もちろん、返済状況については、必ずしも順調とはいえないことや、調査を行ったこの時期はまだ金融危機が表面化しておらず、今後貸し渋り等の発生が懸念されるところではあるが¹²⁾)。銀行からの借入れがなかったり、少ないことは、一見経営が安定していることを示している。しかし他方では、金融面での停滞・縮小によって、経営の拡大はおろかその維持すら困難な経営の実態が浮かび上がってくる。

実際に、事業の継続意志は、とくに個人経営を中心に揺らいでいる(表3-5)。すなわち、個人経営では、廃業も考えている層だけで半分を占め、加えて、後継者がいるのは2割弱にとどまる。事業の展望もさることながら、夕張自体の存続も定かではない中で、子どもに事業を継がせることをためらう事業者の声も少なからず聞かれた(先述の聞き取

り等も参照)。

●建設005：土建業。財政再建団体転落以後、業績は悪化。仕事のほとんどが夕張地域の仕事だったため、売上は3分の1に減少。数年前であれば、4月頃から4～5本の工事を受注していたが、今年は現在まで受注が1本のみ。従業員も数年前は5人いたのに対して今は2人。財政破綻で市発注の公共工事はなく、仕事は激減。加えて、原油・原材料価格の高騰と税金の上昇で経営はかなり厳しい状態。今年で廃業も視野に入れている。経営悪化で人員削減を行うしかないのが現状。

●小売001：再建団体入り後、売上減。店の経営は悪く、商売をやめるか悩んでいる。お客さんがこなくて困っている。以前はバスで観光客が来店しメロンを買っていた。今はもうバスは来ない。客が減ってお手上げ状態で、事業を早くやめたい。

●小売012：人口減で、営業していても採算がとれないため、いつやめるかを考えている状態。市が行っていたことのツケが全て市民にのしかかっている。生活困難。

●小売014：破綻後の売上減少の原因は人口減や雇員の減少にある。役所が主な取引先だったので、役所のダウンサイジングは痛い。他地域の同業者などにお客さんを取られている。チェーン店なので、仕事を貰いかりうじて事業を継続している。店を子ど

表3-5 事業の継続意志及び後継者の有無

単位：事業者、%

		経営形態別					
		全体		個人経営		法人経営	
		94	100.0	38	100.0	56	100.0
a. 事業の継続意志	継続したい	38	40.4	11	28.9	27	48.2
	廃業も考えている	35	37.2	19	50.0	16	28.6
	分らない	21	22.3	8	21.1	13	23.2
		102	100.0	44	100.0	58	100.0
b. 後継者の有無	いる	34	33.3	8	18.2	26	44.8
	いない	68	66.7	36	81.8	32	55.2

12 私たちの研修はすでに終えた時期にあたるが、「道内零細 倒産2割増」という事態が報じられた(『北海道新聞』朝刊2008年12月27日)。記事によれば、従業員10人未満の零細企業の倒産

件数は前年を19%上回る512件で全倒産件数の7割近くを占めるという(データは東京商工リサーチ北海道支社)。

表3-6 事業収入を除く、世帯における収入源の有無とその種類及び暮らしの状況

単位：事業者，%

		全体		経営形態別			
		95	100.0	個人経営		法人経営	
				41	100.0	54	100.0
a. 世帯における収入源の有無 (事業収入を除く)	なし	38	40.0	12	29.3	26	48.1
	ある	57	60.0	29	70.7	28	51.9
		57	100.0	29	100.0	28	100.0
b. 世帯の収入源 (複数回答可)	世帯員の、家業以外の就業収入	10	17.5	7	24.1	3	10.7
	家賃・地代	6	10.5	1	3.4	5	17.9
	本人や家族の年金収入	42	73.7	22	75.9	20	71.4
	その他 (収入源)	3	5.3	1	3.4	2	7.1
		90	100.0	39	100.0	51	100.0
c. 暮らしの状況	毎月赤字	10	11.1	5	12.8	5	9.8
	赤字の月のほうが多い	25	27.8	11	28.2	14	27.5
	毎月、収支がほぼ同じ (収支トントン)	35	38.9	14	35.9	21	41.2
	黒字の月のほうが多い	7	7.8	5	12.8	2	3.9
	毎月黒字	6	6.7	2	5.1	4	7.8
	分からない	7	7.8	2	5.1	5	9.8
(再掲) 赤字計			38.9		41.0		37.3

もに継いで貰う予定だったけれども、今の夕張では不安だから無理に継がせる事は出来ない。

●理美容 004：店で使用している化粧品関係の値段が上がっている。顧客の減。破綻して人口減で客が減ったというより、高齢で亡くなったことによるものだと思う。床屋自体も高齢化して、夕張からなくなってしまうのではないかと。2代目が継ごうとしても、若者は札幌の理容学校へ行ってそのまま帰ってこない。ガス、電気、灯油の値上がりがかつすぎる(家計にダメージ)。値上げは10年以上していない。

●その他 004：事業経営は厳しい。顧客の減少で顧客料も下げざるをえなくなった。事業を子どもに継がせる予定はない。自分の子どもが夕張に帰ってきて先行きが見えないまま家を継いでもらうよりも、安定して働けるところに就職してもらいたい。

4. 少ない事業所得と年金頼みの厳しい家計、重い社会保険料の負担

高齢事業者世帯の家計を支えているその一つが、事業者本人あるいはその家族の年金収入である(表3-6)。すなわち、現在年金をもらっている事業者は73.7%に及ぶ(但し、事業収入以外に収入源がある世帯に限る。

全体の4割はそもそも収入源なし)。もっとも、それでも暮らしの状況は厳しい。家計が赤字(「毎月赤字」「赤字の月のほうが多い」の計)であるという回答は約4割に及ぶ。中には、家業以外に雇用労働者として働いているというケースもみられた(例えば、先述の「製造 006」。あるいは筆者が直接訪問したところだけでも2件あった¹³⁾。

低所得の一方で、税や社会保険料負担は重い。国民健康保険(以下、国保)加入者の保険料の滞納が増加し、病気になっても病院にかかることができずに、最悪の場合命を落とすケースが全国で問題になっているいま、本調査ではどうか(表3-7)。まず、医療保険の種類で最も多いのは国保で(個人経営ではほぼ全員が国保)、そのうち健康保険料

13 そのうちの一例が次のとおり。小売 004：店の売上だけでは厳しいので、別の仕事(雇用労働)もしている。「タスポ」の導入で自販機のタバコ売上が大きく減少。駄菓子を買に来る子どもたちから消費税をとることはできない。下宿も営んでいるが、利用減と風呂の燃料代が負担。また、家族介護の負担もあり、今後のことが心配。

表 3－7 医療保険の種類，年間保険料，負担感 単位：事業者，%

		全体		経営形態別			
		91	100.0	39	100.0	52	100.0
a. 医療保険の種類	国民健康保険	52	57.1	37	94.9	15	28.8
	建設国保	1	1.1			1	1.9
	社会保険（健康保険）	38	41.8	2	5.1	36	69.2
		46	100.0	33	100.0	13	100.0
b. 世帯全体の年間国保料（税）	～10 万円未満	3	6.5	1	3.0	2	15.4
	～20 万円未満	13	28.3	11	33.3	2	15.4
	～30 万円未満	8	17.4	6	18.2	2	15.4
	～40 万円未満	6	13.0	4	12.1	2	15.4
	～50 万円未満	6	13.0	4	12.1	2	15.4
	50 万円以上	10	21.7	7	21.2	3	23.1
		50	100.0	36	100.0	14	100.0
c. 国保料（税）の負担感	非常に厳しい	29	58.0	20	55.6	9	64.3
	まあ厳しい	17	34.0	12	33.3	5	35.7
	あまり厳しくない	4	8.0	4	11.1		

表 3－8 年金保険の種類，保険料の滞納状況，負担感 単位：事業者，%

		92	100.0
a. 年金保険の種類（受給を含む）	国民年金	24	26.1
	厚生年金	34	37.0
	公的年金には加入していない	1	1.1
	すでに年金を受け取っている	33	35.9
		23	100.0
b. 国民年金保険料の滞納状況	ある	4	17.4
	ない	18	78.3
	免除してもらっている	1	4.3
		20	100.0
c. 国民年金保険料の負担感	非常に厳しい	9	45.0
	まあ厳しい	8	40.0
	あまり厳しくない	3	15.0

（税）の滞納がある事業者は 2 人で，今日，社会問題になっているような目立った滞納状況はみられない。そして，その 2 人を含む全員が正規の保険証を支給されている。

もっとも，事業所得の水準は先にみたように低い（個人経営では 3 人に 2 人が 300 万円未満）にもかかわらず，世帯の年間保険料は高い。保険料の負担が「非常に厳しい」と回答した事業者は 6 割にも及ぶ。なお，社会保険・建設国保に加入している事業者では，負担が「非常に厳しい」というのは 38.2%にとどまった。

年金保険料の負担はどうか（表 3－8）。

すでにみたとおり，高齢事業者の世帯では年金が収入源の一つとなっているが，年金をまだかけている事業者世帯では，厚生年金加入が 37.0%，国民年金加入が 26.1%である。そして国民年金の保険料の支払いを滞納している事業者は，医療保険におけるそれよりも多い。また保険料負担も現役世代に厳しくのしかかっている状況が示唆される。

以上でみてきた生活の困難等は，直接語ることはやはりはばかれるのか，聞き取りではそう聞かれなかったようだが，調査票に書かれた自由記述には深刻な内容も少なからずみられた。以下に記す（なお，健康診断の受

診率の低さなど自営業者でみられるいわゆる健康問題については、資料3の年齢別クロス集計を参照されたい¹⁴⁾。

【028】年金のみでの生活は不可能。働き続けることによる収入で現状を維持し、病気や入院等の状況になれば、保険等で処理できればと思っているが、正直、十分な金額ではないので不安が残る（クリーニング業）

【069】どちらにしても、今の夕張は国の傘下にある以上、どうにもなりません。年金者の多い市です。お年寄りを大切にしたいです。私自身、病気持ちです。本当は借金があれば、店は閉めたい気持ちです！（飲食業）

【080】年金をまじめに払っていても、もらえる年金から介護保険料、後期高齢者保険料を差し引かれたらいったい自分の年金はいくらもらえるのか、まだ何かとられるのか、老後はどうなるのか、不安です。（製造業）

【088】夕張には、働きたくても働く場がなく、病院もないので市外に行くと交通費がかかる。給料をあげると保険料もあがる。その負担はとても大きい。でも将来もらえる年金が少なくなる。どうしたらよいか悩むところ。（土木業）

【093】国民年金は生活保護費よりも安いにもかかわらず

らず、医療免除等不利な点多すぎ。早急な改善を望みたい。（小売業）

【095】やはり、40年もかけていて〔給付が〕少なすぎる。果たして今後食べていけるか不安です。病気とかすることを考えると心配です。（建設工事）

【096】妻の病気のため高額医療の手続きをしているが、そのためには税金の滞納があってはならないので、まずは何があっても、税金のほうにお金をまわすので本当に苦しい。（飲食業）

【104】親が現在老健施設に入所していますが、国民年金が3万程しかなく、母の通所とあわせて月に12、13万程かかり、足りない分の負担が大変です。（小売業）

まとめに代えて

調査結果をあらためて整理すると、夕張の事業者の経営状況は総じて相当に厳しいといえよう。財政破綻にともなう人口流出あるいは消費抑制や需要減少にともない、売上は大きく減少している。また高齢化が進んでいるが、後継者がいない事業者も個人経営を中心に多い。今後の展望がなかなか見えない中で、廃業を考えている事業者も少なくなかった。

もっとも、そうした厳しい状況の一方で、若い層を中心に事業継続の意志は強い（50歳未満では廃業を考えているのはゼロ）。また、厳しい状況だが商売は続けたいし夕張にも住み続けたい、夕張再生のためにも他の事業者と連携して事業拡大を考えている、等々の積極的な声も聞かれた。あるいは、夕張市民という立場からの発言では、住み慣れたマチで暮らし続けたい、自分たちのマチを守っていききたい、そのためになんとかこれ以上の人口流出を食い止めたいという切実な声を訪問したほぼ全ての事業者から聞かされた（と学生らは語っていた（むしろ、深刻な表情で聞き取りをする学生らが反対に励まされるというケースもあった））。

14 結果を簡潔にまとめておくと、(1)健康状態については、年齢の高い層で「やや不調」の割合が若干多く（「70歳以上」で25.9%）、(2)持病（「医師から診断されたもの」に限定）は、高齢の層ほど、高血圧や腰痛、高脂血症あるいは心臓病の割合が高いことが特徴である（例えば高血圧は42.9%）。もちろん、雇用労働者と比べると働き方にはある程度自由な裁量を伴うため、持病をもちながらも体調・健康と「相談」しながら働き続けることは一応可能であり、上の健康状態等は一概に問題視する必要はないかもしれない。(3)だが、一方では所得の減少を長時間就業でカバーしようとする傾向もみられ、健康を害する機会は増えているといえよう。にも関わらず、相対的に若い層を中心に健康診断の受診状況がよくない（例えば「50歳未満」では毎年の受診は36.4%にとどまる）点は改善が必要であるだろう。

その是非はともかくとして、刑務所などの迷惑施設やカジノあるいは自衛隊などの誘致構想が地域経済活性化の具体案としてしばしば聞かれる。まさに国策のモデルケースとして厳しい再建計画を押し付けられ、また地域再生の展望がなかなか見えて来ない状況の中で性急に誘致構想に頼りたくなる気持ちは、ある意味においては理解できよう¹⁵。国と道はまず第一に、夕張を真の意味で再生する計画とはいえない現行の財政再建計画を根本的に見直す必要がある。また自治体の危機をさらに拡大する姿勢をあらため、夕張財政破綻の経緯をふまえ、夕張に対する積極的な支援策を打ち出すべきではないか。

以上のことをまずは確認した上で、地域産業振興策を中心に地域再生のあり方を最後に考えてみたい。もとより、財政破綻当初の想定をはるかに超える人口減などの夕張の危機的な現状を考えると、夕張再生の展望を打ち出す作業は容易なものでは決してないし、またさらなる精密かつ広範囲にわたる調査活動を必要とすることは言うまでもない。ここではあくまでも基本的な方向性を論ずるにとどめる¹⁶。

・地域の資源を生かした持続的な発展を

迷惑施設等の誘致構想との関連でまずおさえるべき点は、地域再生の原理・原則とは何なのかということである。何でもありでは当然ない。本間(2007)¹⁷にならっていえば、

15 もちろん、そうした施設の受け入れ等が狭い意味でも経済的効果を果たしてあげうるのかどうかは、各地の経験に学ぶ必要がある。岡田(2005)の「Ⅱ部 地域開発政策の失敗から学ぶ」など参照。

16 参考までに、本研修を終えた学生が夕張の振興策として考えたものをあげると、リサイクル施設の整備、広大な土地を利用した企業誘致、経済特区制度を利用した工業地帯の整備、マチのコンパクトシティ化と福祉のマチづくり、などだった。

17 本間(2007) p 9, 10では、地域再生が目指す

そこで暮らす人々の人権・生活や環境が守られること、そこで暮らす人々の幅広い参画で再生の方向が決められる必要があること、等があげられよう。

そう考えると、従来型の地域振興策は果たして本当に有効なのか検証が必要になるだろう。むしろ、地域内の(広義の)資源をフルに活用し、なおかつ、その産業連関を重視し、資源を循環させることで地域づくりを進めることの重要性を説く岡田(2005)の「地域内再投資力」という概念が地域経済の再生にあたり参考になるのではないかと¹⁸。例えば本調査でも、地元建設業者の仕事につながらない(しかも場合によっては環境破壊型の)大型開発事業のあり方への疑問の声があがっていた。公共事業という点では、むしろ福祉施設の建設や高齢者が暮らしやすい住まいづくり(リフォームを含む)などが求められているのではないかと(後述の、市営住宅の集約化の動きや共同住宅を求める声も参照)。

・産業振興策の具体化を

夕張再建計画の見直しに加えて、夕張の持

べき原理・原則を次のようにいう。すなわち、「第一に、すべての人々の人権が保障された地域につくり直すことであり、第二に人々がその地域の仕事で生活しうること、第三に自然と共生しうること、第四として、これが重要なことですが、永田町や霞が関の思惑により地域をつくり直すのではなく、そこに住む人々自身により再生を図ることです。つまり住民自身が地域再生の主役にならなければなりません」。

18 岡田(2005) p 139, 140では「地域内再投資力こそ決定的に重要」という小見出しで次のようにいう。すなわち、「地域経済の持続的発展とは、地域内の再生産の維持・拡大を意味します。その再生産の質と量を規定するのは、その地域全体がもっている再投資力にほかなりません。(略)地元根付いた再投資主体を自ら意識的に形成することによって、地域に仕事と所得を生み出す方が、はるかに地域の持続的発展につながるといえます」。

統的な発展を可能とする産業振興策や中小企業振興策をよく練り直す必要があるのではないか。もちろん、すでに商工会議所等を中心とする企業誘致や、NPO法人による観光事業がそれぞれ進められている。こうした取り組みとあわせて、夕張の資源を生かした持続的な発展が可能となるような中長期的で、総合的な産業振興策を議論し作っていく必要があるのではないか。むしろそれは、自治体によるトップダウンではなく、幅広い関係者の参画で練り上げていくことが求められよう。植田(2007)は、地方自治体で中小企業振興条例を定める意義について、次のように述べる。すなわち、「基本条例は自治体の地域産業政策を展開する上で①自治体の立場を明確にする、②地域の中小企業への理解を得る、③行政の姿勢の連続性を担保するという点で重要な意義を持っている」¹⁹ という。

・住民参画による地域再生と、自治体の役割強化

先に紹介した地域内再投資力(岡田)における地域の資源には、市民の多様なネットワークが含まれる。その意味で、財政破綻という事情を背景としているとはいえ、夕張は市民ネットワークが強固であり、住民ボランティアの活動も熱心である。本調査でも、マチの将来に関する意見は数多く聞かれた。市財政の非開示という過去の反省に立ち、積極的な情報開示と住民との交流・意見交換、市民参画の制度的な保障を実現すること。また本調査との関連でいえば、事業者の意向調査や事業者間のネットワークづくり、地域産業振興のあり方を検討する機会を設けることなどが必要ではないか。今回の聞き取り調査でも、人手不足という事情はわかるが、と断りつつも、行政が全ての事業者をまわれば、いろいろな情報を集めることは可能だろうし、

そういう情報を産業振興に役立てるべきだという意見が聞かれた。もちろん市の現在の体制でそれが困難であれば、今回の私たちの作業がまさにそうであったように、大学機関等との連携が考えられよう。今後、基礎自治体には、地域の実態に応じた産業振興策や雇用政策を企画・立案していくその能力を高めることが求められる。

・コンパクトシティ化と福祉のマチづくり

行政サービスコストの軽減という観点からだけでなく、中心市街地の活性化・マチづくりという観点からも、現在行政が検討している市営住宅の集約化は避け得ないのではないか。もちろん、実際には、現在の住居を離れることには抵抗があるだろうし、仮に実現したとしてもその後のケアなどが必要になるだろうが、高齢者の間にも共同住宅を求める声は少なからず聞かれるようである²⁰。住民の生活圏を集約することで、住民サービスの向上や、中心市街地・商店街の活性化を図ることが可能になるのではないだろうか。

あわせて、人口に占める高齢者割合が全国一という状況をいかし、福祉のマチづくりを目指すことの提案も、少なからぬ事業者から聞かれたことである(現実には、少なくとも公共施設が廃止され、医療・介護分野のサービスも縮小しているが)。その際には、福祉を享受する存在としてではなく、高齢化が進行した地域の地域・産業づくりの主体として、高齢者を位置づけることをも視野にいれていくべきではないか²¹。自由裁量がきく自営業

20 「「最期まで夕張」86%「共同住宅を」2割 NPO法人が高齢者調査」『朝日新聞』朝刊2008年12月14日。

21 長野県栄村では、軽量野菜の栽培や伝統工芸品づくりなど、高齢者がその能力を活かして生きいきと働き続けられる環境整備をはかり、高齢者の就業率が高い。しかも、一人当たり老人医療費が全国最低であることで有名な長野県の中でも、栄

19 植田(2007) p.58.

という働き方はそれに適している。また、高齢者が市外へ出ていかざるを得ない状況は、市外への年金資源の流出を意味する。逆に言えば、高齢者が暮らし続けられる環境整備を図ることは、地域経済内での年金資源の還流を可能にする。低額の年金支給で生活の困難を余儀なくされている高齢者がいる。その一方で、かつての炭鉱労働者が受給する比較的高額の年金を地域内で循環させることのさまざまな効果を考えてみてもよいのではないか。

謝 辞

今回の研修ならびに調査においては、夕張商工会議所及び会員各位、そして夕張市にたいへんにお世話になりました。あらためて感謝申し上げます。

参考文献

1. 朝日新聞北海道支社報道センター編『2007年崩落。それでも生きてゆく — 朝日新聞の夕張報道全記録』寿郎社, 2008年
2. 植田浩史ら『中小企業・ベンチャー企業論』有斐閣, 2006年
3. 植田浩史『自治体の地域産業政策と中小企業振興基本条例』自治体研究社, 2007年
4. 岡田知弘『地域づくりの経済学入門 — 地域内再投資力論』自治体研究社, 2005年
5. 岡田知弘, 石崎誠也編著『地域自治組織と住民自治』自治体研究社, 2006年
6. 岡田知弘ら『国際化時代の地域経済学 第3版』有斐閣, 2007年
7. 黒瀬直宏『中小企業政策(国際公共政策叢書9)』日本経済評論社, 2006年
8. 全国商工団体連合会『中小業者の営業とくらし・健康実態調査報告集』全国商工団体連合会, 2003年
9. 中小企業庁『中小企業白書 — 生産性向上と地域活性化への挑戦』ぎょうせい, 2008年
10. 東海自治体問題研究所編『自立と共生の地域産業』自治体研究社, 1998年
11. 平岡和久, 森裕之『検証「三位一体の改革」 — 自治体から問う地方財政改革』自治体研究社, 2005年
12. 保母武彦ら『夕張 破綻と再生 — 財政危機から地域を再建するために』自治体研究社, 2007年
13. 本間義人『地域再生の条件』岩波書店, 2007年
14. 森靖雄『中小企業が日本経済を救う』大月書店, 2004年
15. 夕張市「夕張市の統計(平成18年度)」(夕張市ホームページよりダウンロード)
16. 夕張市「夕張の概況説明(平成20年度)」
17. 読売新聞北海道支社夕張支局編著『限界自治夕張検証 — 女性記者が追った600日』梧桐書院, 2008年

村は、県内第五位の高齢化率であるにもかかわらず、県平均の老人医療費を下回っている。以上は、岡田(2005)第9章を参照。

資料1 聞き取り調査結果

本文でことわったとおり、調査員の調査能力（聞き取り、記録作業）にはばらつきがあった。そのため、ご協力いただいた聞き取り結果の全てが記録されているわけではない。また、個々の事業者が特定されないよう、配慮している。聞き取った内容は、事業経営や暮らしの状況、夕張財政破綻に対する評価、事業や夕張の今後について、などが中心である。敬称等は略している。

製造（食品製造・販売を含む）

●製造 001：売り上げは減少している。必要数以上は作っていない。過去の市政の問題については、議会・議員はわかっていた、言わないだけで。結局は彼らが彼らの為だけにやっていたことだ。夕張の展望はみえない。しかし夕張だけがこういう状態ではなく、どの自治体もそうである、夕張がその代表みたくなくていいだけだ。だからといってあわれみの目で見られたいわけではない。市の提案が仮に実現したとしても夕張は良くなるのか。農協や商工会議所が行っている事業なども検証する必要がある。

●製造 002：現在は家族従業員1人で経営。以前は職人を2人雇用。後継者に関しては問題ない（跡取り息子がいる）。

●製造 003：（従業員からの聞き取り）かつては10人もいた従業員も、いまは社長1人と、従業員2人のみ。夕張での仕事はほとんどなく、札幌での仕事が多い。出来上がった部品など、発注者からのチェックがととても厳しくなり、ペンキの厚さなども念入りにチェックされ、いじめではないかと思うほど非常に厳しい。発注遅れがあっても納期は考慮されない。中小企業あつての大手であることを理解してもらいたい。資材の高騰も厳しい。市役所も大変だろうが、我々中小企業はボーナスももともとないし、燃料手当でも残業代もない中で頑張ってきた。炭鉱時代は電気代も風呂代もタダ、今とは違いすぎる生活だった。炭鉱時代の人には年金が何十万ももらえた。今は夕張では仕事は無い。今後の事業拡大はありえない、つぶれるのを待つだけ。

●製造 004：過去も現在も含め、夕張市内での仕事・受注はしておらず、市外の工場への工業技術・製品の納入を行っているため、財政再建団体入り以後も、売り上げや受注数等はほぼ変化はない。経営自体も、良くも悪くもない。仕事自体はある。財政再建団体入り

後、廃業した工場の従業員を雇用したので、全体の従業員が増えた。人員を増やして現在の仕事量を回している。企業として困っていることはない。もっとも、実感として財政破綻後の店舗・事業所数の減少や原油・原材料価格の高騰、税金の値上がりが生活や経営を圧迫しているのは感じる。もっと若者を夕張に引き止めるような政策を作るべきでは。小学校1校、中学校1校のような状態は望ましいものではない。また、商店街・街の活気をあげることに加えて、夕張市のマチを縮小化、一箇所集中のような形にして、人と人の距離感を小さくすることにより人の集まりを良くすることで役所業務も円滑化するのではないかと。

●製造 005：名刺、写真集、ポスターなど印刷全般業務。夫婦と身内の計3人で営業。跡継ぎを見つけないのはなく、自然消滅（廃業）になると思う。みんなが年金をもらえるまで継続できたら良い。パソコンなど電化製品の普及により、印刷業界全体が厳しい。市役所、第3セクターなどの仕事を中心だったため破綻による影響はとても大きかった。学校における通知票や卒業文集などの作成もコスト削減で先生たち自らが行うようになったので、学校からの依頼はほとんどなくなった。卒業文集も印刷し終わった物の製本だけの依頼になった。児童の数も減った。一つの仕事の依頼を完成するのに時間がかかるので、全く仕事がないということはあまりないが。ボランティア活動も行っている。「子ども達のために何かしたい」という気持ちを持った人が地道に活動が続け、お祭りを企画したり、若い人も積極的に動き出すようになったことが嬉しい。自分で仕事を生み出すということがとても大切。「無理をしないで続けていく」「みんなで楽しもう」という考えで活動をしている。夕張に関するマスコミの報道には抵抗感がある。

●製造 006：市政については、その時は最善と思ってやったことなのだろうし、しょうがないと思う。現市長は頑張っていると思う。正直、多少諦めもある。生

活さえしていれば。老いた親2人と暮らしているので生活費はかかる。後期高齢者医療制度で国民年金がほとんど残らない。2ヶ月で5万円ちょっと。親が介護を必要としているため、家を離れることができず、市の説明会や懇談会などには参加できていない。病院について、外科がないから、岩見沢や札幌まで行かなくてはならない。料金の値上げが原因でバスの利用が減っている。

●製造 007：収入は減っていない。夕張市民だけを相手に商売をしていてもだめ。うちは札幌など地方への発送をしている。札幌で行われる物産展にも出品するなど、全国展開している。自ら商品を売りに行かなければ。うちは逆に生産が追いつかない。人手不足。体力には限界があり、人を頼めばよいのだが、扱うのは食べ物なので人任せにはできない。コンビニが年中無休であることを考えると、うちも休んでいられない。もっとも、仕入れ価格は高騰している。市にはとくに要望はない。あるけど諦めている。議会は役立っているのだろうか。借金のことも昔からわかっていたはず。中田市政もそうだが、議会の問題もある。ハコモノ行政で儲けたのは建設業のみでは。選挙活動に利用していた面もある。昔は、国が払ってくれるからと、借金をいくらでもしていた。市も見えてみぬふりをしてきた。天下り問題もある。天下りさせるくらいだったら若い人を使うべき。年寄りが一番苦しいと思う。若い人は働き口がないため都市部へ出て行った。働き場があれば若い人も働けるのだけれど。店の前も、歩くのは学生ばかり、17時以降は誰も通らない。本通りもシャッター街になってしまった。地方から来た人が困るので、できればトイレなどの公共施設の維持は国で補助してほしい。

●製造 008：生菓子を扱っている。売上は3～4割落ちている。生活に影響が出ている。今は別の地域で働いているが、後継者はいる。常連はいるが客足は少なくなった。

●製造 009：人口流出で売り上げ減。とくに高齢者は医療問題で市外に転出。役所の人々が頑張っているからあまり注文は言えない。自分で出来る事はボランティアなどで協力している。昔みたいにワンマン体制でなく、市長が頑張っている。でもお金が使えないから大変そう。役所の人達が売り上げ向上させるために手伝ってくれている。

建設

●建設 001：かつては市役所からの仕事があったが、いまは必要最低限のこしか、させてもらえない。増税で負担増。昔は年に何回か入札はあったが、今は年に1、2回しかなく参加出来ない業者もいる。経営助成金を求めたい。

●建設 002：主に土木工事をしている。売上も従業員も年々減少。現在は正社員8人、季節雇用5人。夕張の問題は、夕張だけではなく、北海道全体さらには日本全国に共通する問題。中央より地方の方が、行政が地域の経済に与えている影響は大きく、その意味で今回の夕張の財政破綻は厳しい。

●建設 004：電気工事。仕事は減った。高齢の客では、後期高齢者の保険料も影響しているのだろう。生活を切りつめている。財政破綻の決断は仕方がない。それまで恩恵があったので我慢。今は修理全般を扱っている。公共施設の管理にもボランティアで関わっている。かつては市でお金を払って委託管理していた。人口減少で維持が難しい。中心街に人口集約という意見があるが、移動するくらいなら子どものところへ行く。夕張は現状維持がギリギリの状態、むしろそれすらも厳しいのではないかな。

●建設 005：現在行われているシューパロダムの工事も夕張の建設業者はほぼ関与しておらず、札幌や本州などの大手の建設ゼネコンが入っている。地元の業者は低額の工事しか行えない。地元・地方に工事が回って来ないのが現状。市や道そして国は地方・地元の建設業者に目を向けて欲しい。地元業者に仕事・工事を斡旋するような政策や方法をとってほしい。市長はもっと地元の業者に目をむけてほしい。仮に1社だけでは不可能だとしても2、3社の合同で仕事の受注はできないか。仕事がなければ、税金を納めることもできない。仕事の斡旋も含め、国は夕張財政の破綻に対しての責任を取るべきではないか。会社がつぶれたら街をでていく覚悟。人口流出については、やはり企業誘致による雇用の拡大で食い止めるべき。

●建設 006：部品など材料費が高い。最近では役所からの発注がなくなった。たまに電灯の工事くらい。財政破綻にともないベテランさんを2人解雇した。材料が上がっても工事費はあげないようにしている。その分を自分たちで負担している。

●建設 007：市役所からの発注・公共事業は全くない。燃油代の高騰は非常に痛い。現在、工場の工事を行っている。

●建設 008：土木の仕事は3月に廃業。現在は別の仕事（事業）を行っている。もっとも、そちらも、財政破綻後、経営は下降線。元市長の行動には疑問が残るものもあった。市への期待は無い、聞く耳をもたないから。若年層や人口の流出、一番気になるのは医師不足によって60～70代の高齢の人々や急患への対応は大丈夫なのかということ。若い人々の将来も心配だ。

運送

●運送 001：財政再建団体入り前から売上減で経営は厳しい。破綻してから1年目はあまり売上の落ち込みはなかった。しかし2年目から極端に売上は落ち込んだ。若者が夕張からどんどんいなくなり、飲み会時の利用がなくなった。利用が落ち込んだうえに経費負担増。原油価格の高騰が非常に厳しい。もう一つは、診療所の方針で市民が歩くことを心がけるようになったこと。病気にかからない努力やできるだけ歩く運動をすることが奨励され、タクシーの需要が減った。経費削減策として、アイドリングストップでエンジンをこまめに切る、営業時間の短縮などを採用。人口減少で給料も削減しているがそれは仕方ない。今の職業・生活を守ることが大切、守っていかなければならない。自分たちのためにがんばるという意志。かつて夕張には観光するところはあったが、若い人が働くところは少なく外に出ていかざるを得ない。タクシーに乗る客層としては、やはり高齢者が多い。炭鉱で栄えていたときは、炭鉱労働者にはタクシーをよくつかってもらえた。観光にシフトしてからは、観光客はバスや乗用車で来るため、タクシー会社には観光の恩恵はなかった。経営状況は現在が一番厳しい状況にある。

●運送 002：人口減で荷物の取扱量が減っている。収入は3分の2に減少。燃料高騰も厳しいが、公的料金のため、経営がきついても値上げできない。

●運送 003：財政破綻の影響あり。遠隔地の学校の送り迎え事業などを行っていたが、転居で利用客は減っている。少子化の影響もある。いまは病院の送迎などを行っている。それも減っている。バス料金が高くなったからといってタクシーの需要が増えたというこ

とはない。

小売

●小売 002：メロン販売。やはり人口減が経営に影響を与えている。去年はまだ影響を受けていないが、今年は落ち込むのではないかと。商売の工夫としては、空港への仕入れを行ったり、FAXで注文を受けていたりしている。夏は観光客が来るが、人口減や仕入れ値の高騰で売り上げ・利益が減ってきている。経営を続けていくために、安価な商品を作る、日常生活でたくさん利用するものを作る、今まで作っていなかったもの（漬物など）を作る、などの対策をしている。また、値段を下げて、その分たくさん売り上げることで経営を黒字にしたい。

●小売 006：夫婦で経営。経営状況は苦しく、メロンの時期以外は赤字。今後どうするかも考えていない。こうなってしまったのは、夕張市民のせいというよりは国策ではないか。もっと市長にリーダーシップをとって欲しい。市民懇談会には参加したことがあるが、いつ行っても「お金がない」で終わってしまうから行っても無意味に感じている。

●小売 007：財政再建以後は売り上げが落ちた。メインの顧客であった市役所、3セクの職員の減少が大きい。それでも、2007年はマスコミ等が多く夕張入りしてくれたので、売上はそれほど落ちなかったが、2008年は苦しい。大型店と比較して、自分たちのような小さな店は仕入れ価格などの面で大きく不利。経営の苦境は生活にも影響する。車を所有しない、保険を解約するなどして対応している。しかしそれでも、現状を嘆くことなく、今できる生活が最上のものと考えて、前を向いて明るく生きていきたい。行政も一生懸命頑張ってくれていると思う。夕張は、ないものは出せないし、何か行おうとしてもお金がかかって出来ないと思う。仕事もないので、息子には夕張には戻ってきてほしくない。それくらい夕張の将来は不透明。財政破綻については、夕張市が潰れないと思えば銀行はお金を貸していたのだろうし、例え潰れても国が銀行を救済すると思っていたのではないだろうか。北海道や国は、夕張市民の声を聞き現実を見て欲しい。

●小売 008：売上は2割ほど減少。物価高、人口減少による消費量の減少が影響。消費の減少には、市役所、

3セクの職員といった高所得者の消費が減ったことも原因。現状でできることには限りがあるために、何か大変革を。若年層を呼び込むこと、そのためには雇用の創出を。人口を増やすことが大事。企業の誘致だけではなく、労働力を増やすことも重要。カジノなど、夕張の特徴がマッチした産業に積極的なアプローチを。反対する人も多いが、町を残すためには自衛隊を誘致するのも止むを得ないと思う。夕張は高齢者の方が非常に多いために現状のままでは10年ともたない。次世代に後を託すこともできず、消滅してしまう。

●小売 009：あと1、2年のうちで店は閉めるかも。財政破綻後の出費は出費として割り切っている。年齢は70を超えているが、自分の具合に合わせた稼ぎ方をしている。生活に関しては特に心配はない。みんな同じだから。

●小売 010：財政再建団体転落後の公共サービスの低下(病院の診療所化、市役所の支所の廃止 etc)については、不安、不便を感じる。現在では信金と郵便局が市役所業務などの窓口にもなっているが、この二つが無くなると不便になる。公共サービスなどの福祉はきちんと考えてほしい。税金の値上がり・市民税・固定資産税の値上がりや通院代もきつい。国や道は夕張に対して、夕張市の負債の部分的な肩代わりなどの支援・援助をするべきなのではないか。夕張市や各地区の活性化と人口増加や流失阻止ができる政策を。市長は頑張っている。

●小売 011：経営は非常によくない。物価高や原油高の影響はまだ感じない。量販店に客をとられてしまった。量販店には価格で勝てない。問屋よりも安いので、自分も、量販店で商品を仕入れることがある。この辺りは飲み屋街だからなんとかやれてはいるが、破綻してから人口流出で客が減って厳しい。商売をやっていると店を閉められないので、市の行う行事にも参加できない。もっとも、市や国へは期待をしていない。夕張のアパートは空いているのに単身者はいれないなど無駄が多い。そのため栗山に住む人も多い。夕張には今若者が必要なのに。夕張から出ていきたくても出ていけない。出ていくには、建物を壊して、さら地にして出ていかなければいけないため、莫大な費用負担が必要になるから。

●小売 013：夫婦にパート1人で経営。後継者はなし。夫婦だけなのでなんとか生活はできている。売り上げ

はまだ大きくは下がってないが、これから下がると思う。販売価格の多少の値上げをしているがギリギリ。原油高の影響を大きく受けている。値上げは、お客には納得してもらっている。というより、納得してもらわざるを得ない。夫婦2人なのでなんとか生活はできている。冬になりこの辺り一帯に多くの雪が降ると大変で、高齢者が雪かきをしているのは本当に大変だ。雪かきボランティアはとても有難い。でも、再建団体入りして注目されているいまはよいが、数年経ったらどうなっているか。高齢者ばかりになってきたこのまちにボランティアはずっと続くのだろうか、と心配。都市にも近いという点は安心。健康にも特に問題はないがこれからが不安。

●小売 014：役所にもこうしたアンケートをとって貰いたい。イベントがないから人が集まる機会がない。

●小売 015：炭鉱時代の蓄えがそれなりにあるが、高齢者が多いため生活も苦しい。赤字になっていくようであれば店は辞める。再建団体になったが、以前から市民と行政の結びつきというのは希薄で、今でもそれは変わらない。役所の人達自身が市民の中へ入っていくべき。言う事はもっともらしいが実際にはそうはみえない。ボランティアに頼り過ぎていて、役所は上から目線でそんなに変わってないと思う、市民と助け合う行政になるべき。すぐやる課、ワンストップサービスをやれば良いと思う。もう少し市役所は市民に歩み寄るべきで、市役所には住民の声を聞くための総合窓口を設けるべきだ。市役所は口だけで行動が伴わない。市役所の実態も変わらない。お金はないと言っているが本当に困窮している人々を支援する方法はあるはず。

●小売 016：経営は先細り。人口が減ってしまっ、消費も減少している。ここ数年の売上減は顕著。当然昔のような暮らしはできないのだから、生活の程度は下げるところまで下げる。急に生活を切り詰めることは困難。といってもサラリーマンほど苦しくはない。自分には年金収入もあるので。同業者の数は半数以下になった。量販店の影響もあると思う。現市長はよくやっていると思うが、人口の流出は止まらない。誰がやっても人口の流出は食い止めようがないと思う。人口を増やすような政策、また企業誘致を望む。

●小売 017：人口減少の煽りを受け売上は減少。財政破綻前は各町内に同業者がそれなりに存在していたが、今では各町内に1店のみになった。

●小売 018: 頑張っているが経済面的に暗く売上は年々減少。景気が良かった時の蓄えがあるし、解雇されたサラリーマンとは違い、まだ大丈夫。ただ、生活では節約や辛抱。普段も自転車や徒歩。同業者が3分の1にまで減った。大型店に客を取られ売り上げが減っているため、値段を下げたくても下げられない。企業誘致を望みたいが簡単ではない。行政も頑張って協力しているが現状では難しい。公共料金が高い。子どもが地方に行ってしまう。市長はよくやっている。でも急に上手くいくわけではない。毎月40、50人がいなくなっている。

●小売 019: 財政破綻後、人口減少により経営は悪くなった。もっとも、ちょうど2年前から年金をもらい始めたので食べることに困ってない。過去の政策については、市民は反対だったが、口に出しては言えなかった。上の人にどんどん意見を言えればよかったと思う。借金があることはみんな知っていた。市長がワンマンだったことは間違いない。今後の夕張については、変わらないと思う。マイナスになってもプラスにはならないだろう。ただ、人口が増えれば変わらと思う。企業誘致によって若年層と人口の増加があれば変化があるのではないか。

●小売 020: 売り上げは最盛期(財政再建団体入り以前)の半分から3分の1程度に落ちている。業務上、市役所からの仕事(受注)や公的行事用などが売り上げの大半を占めていたため影響が大きい。家族経営で、年金も足して生活はできているが苦しいことには変わりはない。もっとも二人分の年金があるのでなんとかなっている。夕張市の財政破綻に関しては、赤字などの情報は市民には知らされていなかった。国や道が行った石炭・炭鉱事業や観光事業のお金は北炭や市の上層部など一部の人間に恩恵を与えたが、市民にはその恩恵は与えられることはなかったのではないか。借金の返済計画は夕張市民を厳しい状態に追いこむだろう。100年計画のような長期間の返済計画を行うべきではないか。そのような長期計画のほうが市民生活にゆとりが生まれ、人口流失なども防げらると思う。それと同時に将来的な部分(福祉や教育など)の予算を行政は確保すべき。夕張市・市民だけに責任を押し付けず、国・道の責任も含めて立場を示すべきではないのか。国・道には、夕張市民だけに負担させるという考え方を変えて欲しい(責任を考慮したうえで銀行に金利をなくしてもらう等。) いったい国は夕張市を残

したいのか。高齢者が生活を続けることができず、子どもが引き取りにくるケースが増えているようだ。

●小売 021: (従業員からの聞き取り) 売り上げは減少傾向にある。この店は支店なので、企業全体ではわからないが、店舗レベルでみると経営は厳しい。原因としては夕張の財政再建団体化による人口減少に加え、ここ最近の原油高や原材料費の高騰が消費者の購買意識を低下させていることが大きい。現在の市の再建計画が市民生活を厳しいものになっているのは実感として感じる。もし可能であれば、長期的な返済計画にしたほうが、人口流失などの弊害は少なくなるのではないか。毎月、お客さんがポイントカードのポイントを使いきって町を出て行くのでさみしい。公共料金の値上げ、収入の減少、ガソリン・灯油の値上がりにも不満。夕張をでていくかはまだわからない。夕張市内で雇用が減っているために人口流出が止まらない。雇用を増やしてほしい。

●小売 022: シューパロダムの改修・建設工事の影響で、店の経営は、今後5年ほどは良好な見通しである。もともとこの地区では食料品店が姿を消し始め、若者は毎日のコンビニ弁当に飽きていた。その若者の声を聞きつけて弁当屋を始めた。弁当屋は繁盛。さらに、ダムの建設にあたって宿を探している人がいることを聞きつけ、自宅の部屋でご飯を提供。副業として民宿を開始したところ、現在のお店の利益のほとんどを占めるほどになった。今現在5社のダム建設関係者を泊めている。しかし、本業では生活の維持が困難な状況であることに変わりはないのが現状であり、ダム建設が終了した以降に関しては不安。原油高が経営や生活面で負担増になっているのを実感している。元市長のワンマン型の方策が夕張をこのような状態にしたのは事実であり、その責任は市民ではない。粉飾決算を行っていた人間の責任も大きい。しかし、その責任を取るべき人間がもはやいないというのが大問題。無駄なハコモノ建設や派手な映画祭など、赤字になることがわかっていて、市民に恩恵をほとんどたたらさない行為が多すぎた。破綻前に観光施設が次から次へと建設されていたことを不審に思っていた。そういう意味では、今回の夕張の財政再建団体転落の教訓は、そういう過去のあらゆる無駄の削ぎ落としが必要であることや、行政に対して危機感を植えつけたことにある。まだ混乱をしている夕張市にははやく安定してもらいたい。現在は下宿に対してのニーズがあり、下宿数も

足りないので、他の事業者との連携をしてそのニーズに応えることで地区全体の活性化につなげていきたい。そういうことは市役所がしてくれるものではないので、地区の住民自身が行動に移していくべき。市に対する要望は老人ホームの建設・温泉施設の建設、市職員に民間企業を経験した人の意見を反映させ、若者の雇用場所を確保してほしい。マチを出る気はないが、5年後のダム完成後の事業は未定。

●小売 023：売上は半減している。人口減による。いまは1日250台ぐらいの利用で、軽自動車やハイブリッドカーが目立つ。去年から二人解雇。ガソリンスタンドの数は減っていないのに人口は減っているから、売上が落ちるのは当然。仕入れ値が上がっても価格は抑えている。近隣スタンドの状況を見ながら価格を決めている。国は夕張市がなくなってもたいしたことはないと考えているのではないか。働くところがないのでは人口の減少は止まらない。企業誘致しかないと思う。原油が高騰している今、石炭をエネルギーに変える新しい技術開発も必要なのではないか。

●小売 024：新聞に地域のニュースを週2回折り込んでいる。不況で地域商店のチラシは入らない。生協、農協ぐらい。炭鉱があった頃は入っていた。引っ越しが多いし、生活に余裕がないため、新聞を新規でとってくれる人がいない。高齢者が多いから新たにとるというのは多くない。集金率も悪い。自動引き落としでも振り込まない人が多い。滞納していても、部数が減ってしまうため打ち切らない。

●小売 025：扱っている商品は有名なメーカー品で、品質はよいが、スーパーの安売り品の競合で全然売れなくなった。夫婦で経営している。少ない収入でも何とか生活していけるのだからもっと若い人が夕張に残してほしい。でも今の状態で子供を育てていくのは難しい状況。もっと人口を増やす方法を考えてほしい。病院に入ってもすぐに出されてしまい、長く入院することが出来ない。老人ホームも順番待ちしている状態。市もお金がない状態なので、自立していくしかない。基盤産業を作らなければならないと思う。運送業とも提携しているが、最近では荷物が全然少なくなっていて、品物の送りがなくなってきた。大手の企業や自衛隊などが夕張に来てくれば、若い人たちの働き口ができ、人口が増えると思う。そうすれば炭鉱時代の空きアパートなどに入ってもらい、家賃収入や税金

が入ることになる。とにかく企業誘致を希望。夕張には高校が少ないので、子どもを遠くの学校に通わせるのに余分に下宿代などがかかって困る。若い人にもっと頑張ってもらいたい。街中に住んでいても不自由を感じる。夏場はお店までなんとか歩いて行けるが、冬になって雪が降ると歩くのも難しくなる。

●小売 026：市役所の職員住宅の近くなので、客が減り、売り上げへの影響が大きい。その意味で、経営状態は、昔と比べたら悪くなっているが、何とか生活はしていける状態。夕張からは出て行くつもりはない。夕張の人間関係が好き。市役所の人も大変な思いをしているから、特に言いたいことはない。若い人がもっと協力するべき。もう夕張市だけではどうにもならないと思うので、道とか国にも何とかしてもらいたい。

●小売 027：経営状態は厳しい。新聞をとる顧客は減る一方で、人が入ってこないで販売部数が増えることはない。人口が減ると商売にならないので、夕張の人口流出の影響は大きい。若い人がいなくなり高齢者ばかりが残っていくが、その高齢者もどんどん亡くなるので、さらに人口が少なくなるという悪循環。また、若者の新聞離れが著しく、情報媒体の変化によってますます新聞業界は厳しくなっている。新聞を配達するのに車を使うので、ガソリンの高騰は大きな影響を受けている。年金を40数年払ってきたのに、今の受給額では割に合わない。年金だけでは生活をしていけないので、預貯金が必要。

飲食

●飲食 001：人口が毎月どんどん減少しているため経営が苦しい。生活難のため、ほかに店を営んでいる。ラーメンが安いのが売り。客離れの防止のため創業以来値段を上げてない。インターネットでもお店を紹介しており、それで店のことを知ったお客もときどき来る。お客は高齢者が多い。まわりにある市営住宅にはほとんど人は住んでいない。取り壊しにもお金がかかるためそのままになっているようだ。対策としては、お客さんがいないときは電気を消して節約したりしている。

●飲食 003：市には長い目でみた政策を期待している。夜、人が歩かなくなったと感じている。まちに飲食店自体が減ってきている。観光面でも、以前は、客は家

族連れが多く、芸能人や有名人も多く来ていた。スキー客など、大学生や若者も多く来ていたが今は全く来ない。夫婦2人で営業。後継者はいら（別の店で修行中）。夕張という地域の立地条件を活かして医療や福祉の面で力を入れることができるのではないかと。自分の親の看病を通じて、夕張にもそういう施設があればと思う。ホスピスなどは札幌近郊の騒がしい地域にあるより、自然豊かで静かな夕張がむいていると思う。高齢者人口が多いので、福祉の供給体制を整備することが必要だと思う。

●飲食 004：人口が流出したため売上は落ちた。観光客はそれほど来ず、地元客が中心。また昨年まで居た診療所の医師がいなくなったので、健康面で不安。地域医療は深刻な問題。行政は頑張っていると思う。この店の広告も市役所の職員が作成してくれた。また行政のダウンサイジングによる公共サービスの低下を補う為に市民ボランティアの方たちが頑張ってくれているのは本当にありがたい。今後の夕張はますます人口が減少していくだろうし、その分消費も減り、商店街はより閑散としたものになると思う。若い人が働く場所がないというのが大きな要因。

●飲食 005：立地の条件上、車のお客さんがメインなので、ガソリン代が高くなったことの影響が大きい。

●飲食 007：経営難だが、廃業するつもりも夕張を離れることも考えていない。年金などで生活自体はできているという一面もあるが、それ以上に、友人などがいて夕張は居心地が良いから。生活のためや職探しなどの理由で離れる人はいても、夕張を離れたくて離れる人はいないのではないかと。働き先がないため苦小牧や栗山に行ってしまう。企業誘致で雇用を拡大して若者が夕張に戻ってくることを望んでいる。破綻については誰が悪かったなどと責任を追及しても仕方がないし、市長を選んだ市民の責任もある。行政を落ち着かせて九州のまちのケースみたいに立て直すことができることを望んでいる。小規模でも良いので、雇用が創出される企業の誘致を成功させてほしい。夕張市が行っている住民説明会の場でもそう提案している。夕張の責任の追及を行うことに意味はなく、市民の責任も少なからず存在しているのだから、前向きな、将来的な取り組みをするべきではないか。

●飲食 008：勤め口がないから人口が減った。飲食店はどこも売り上げは減っている。世界経済の動向に便

乗してか、原材料が値上がりしている。石炭も大きく値上がり。いま後継者はいない。夕張には働き口がないため子どもは外に出した。大学に通わせている。炭鉱がなくなった時点でダメだともうわかっていた。観光事業はプラスだったと思っている。そのための借金は仕方なかった。債権団体になる前と、なった後での生活はかわらない。もっとも、地域医療の問題、医療縮小は確かに感じる。専門医が少ない、というかいけない。認知症などの方の行き場がないのがかわいそうだ。自分たちはこの状況を耐えねばならないと思う。あれこれ言える立場じゃない。市は一生懸命やっていると

理美容

●理美容 001：売上は減少。農家が多い地域だから交通の便が悪い。電車とバスの時刻が同じで、乗り継ぎが出来ない。大きなバスではなく小さなバスで運行回数を増やしてもらいたい。大きなバスだと足場が高く、足の不自由な人には大変だと思う。夕張を出たいということもあるが、子どもには頼りたくない。転居するのであれば地方に行くけれど、年をとっているから行きたいと思わない。役所の人は頼めば時間を合わせてくれて、出来る限りの事をやっていると思う。ただ、イベントは市民には役に立っていない気がする。将来のことは考えられない。今を生きることで精一杯。年寄りが多く、若い人が少ないから夕張自体が自然消滅するのではないかと心配である。

●理美容 002：人口が減ってお客さんが全然いなくなってしまった。一人暮らしなので生活していて困ることはない。市役所の人は定年になっても長々といすぎるのではないかと、定年になったらちっと辞めて欲しい。財政破綻してからでも市議員が全然減っていない。今の市長に文句を言ったりするのは無理だし、かわいそうだと思う。市長さんは庶民的に動いていると思うので、もっと市民が協力していくべき。夕張市民は、今まで炭鉱会社がすべてやってくれたので自分たちで何かするという事に慣れていない。もっと市民が市に対して協力体制をつくるべきだと思う。

●理美容 003：炭鉱が閉山され、お客さんが減ってしまったのに、財政再建団体になって、さらに減ってしまった。国民年金があまりにも低いので、それだけでは生活して行けない。

自動車整備 (販売を含む)

●自動車整備 001: 人口減少が売上減に直結している。財政再建団体入り前から売上は減少していたが。最盛期は13人の従業員がいたが、今は1人。住民税などの負担増は大変だが仕方がないと割り切っている部分もある。まちが貧しい分、近所づきあいは頻繁で、そのところはよい部分。世間話・コミュニケーション等もサービス業にとって大事なこと。

●自動車整備 002: 従業員の数は10年前と比べて半分以下。車の販売台数も減少。

●自動車整備 003: 部品屋さんも数%の値上げがあった。夕張は町と町が離れており、交通も不便であるため、車をやめられない。商売に關しての最近の変化は、代金を持ってこない人が多くなったこと。重量税等を立て替えている。燃料費の節約のためか、軽自動車が多い。企業誘致をして欲しい。

●自動車整備 004: 客が減っている。子どものところへ出て行った人も多い。部品やオイルの値段も上がっているが、付き合いの長い客だから、値上げもしづらい。高齢者には家族から運転をやめるよう言われる人が増えている。夕張は雇用がないから厳しい。その点、誘致企業は本当に頑張ってくれている。車の修理だけではやっていけないから、メロン農家の機械の修理も行っている。メロン農家が忙しい時期にはよく機械の調子も悪くなり、修理も多い。最近、車を修理したりしても代金未払いの客が増えている。

●自動車整備 005: 自動車の販売も行っている。家族経営で事業を行っていた同業者が市の財政破たん後に次々と辞めた。そのため、そのときだけはその分だけ仕事が増えた。今はゴム・高速道路の建設で機械などのリースという仕事があるが、その後は不安。

その他

●その他 001: 破綻については、市民が協力していくしかない。夕張は、自然がたくさんあり避暑地などにも利用できる。今回の破綻は他の地域にもよい見本になった。冬は、雪が10m~20mつものので、除雪が大変(高齢者が多いことも原因)。破綻したのは夕張だけの責任ではなく国にも責任がある。

●その他 002: お客の減少で、いつ潰れるか分からない。

●その他 003: 財政破綻後の事業収入は、3分の1~4分の1にまで減少。一人居る事業員も、フルタイムから昼だけの勤務に変更。収入減の原因は、会員である建設業者の脱退。会員数は財政破綻以前と比較して半分にまで減少。建設業は苦しい。役所の仕事もない。役所の人員削減で、繁華街や商店街は大きなダメージを受けた。また財政破綻による影響度は若い夫婦や単身の年金受給者でより大きい。自分は年金をもらっているのに、生活の心配はないが、子どものいる世帯は大変。若者してみれば雇用がないし、あっても収入が少ないので、高校卒業後は町を出ていく。企業誘致があっても条件は必ずしもよくはなく、若者の受け皿にはなりえない。行政に望むことはない。要望があっても実現が不可能だから。それほどまでに市役所は限られた財政に縛り付けられ動けなくなっている。また国や道の支援を期待することもできない。全国からの寄付金、イベントの誘致、イベント収支の一部寄付、市民ボランティア活動はありがたい。

●その他 004: 今の夕張はニュースやテレビで暗い報道ばかりされているが、市民は全然暗くならない、むしろ前向きな気持ちを持って暮らしている。財政破綻を機に、行政に対する住民の意識は強まった。公衆トイレなどの施設の維持管理をボランティアとして行うなど住民の参加の意識が高まり、住民同士のつながりも出来た。今後の夕張市に求めることは、人口流出ストップ、伝統産業の活性化。これ以上の人口流出は致命的。このままでは子どもが市からいなくなるのでは。何とかして企業誘致などを起こしマチの活性化に繋げていかなくてはならない。そのためには自衛隊でもいいから来て欲しい。イベントを開催し、観光で復活できないか。自分はこれからもずっと夕張で暮らす。

●その他 005: 財政破綻後の経営は厳しい。車の使用を抑えるなどの節約はしている。市は一生懸命やってくれている。市民の協力、国・道の支援は不可欠。特に国と道には、夕張の現状把握をより正確に行ってもらいたい。

●その他 006: もともとは第3セクターの業務を請け負っていた。当時は市役所に次ぐ事業規模だった。しかし財政再建団体入り引き金となり業績が厳しくなり、経営を縮小し、200名以上いた従業員は今では40

名弱まで減少。退職金を払うことが出来る体力があるうちに従業員は解雇。誘致企業は、派遣労働者などの雇用が多く、地元住民の雇用の活性化にまでつなげていないようだとも聞く。近くにスポーツ店やお食事処などがあったが今はなくなってしまった。これからの活性化には、別荘を建てるといったニセコをモデルとしたマチづくりや、代替エネルギーが注目され石炭が見直されている今、路頭炭を積極的に採掘して、もう一度石炭の町としての町おこしを希望する。

●その他 007：銀行の場所が移動したことで人通りも変わりお客も減った。財政破綻後の需要減と、石油高騰が経営難の背景にある。石油高騰で値上げしたらこんどは売上が減少。財政破綻前と比べて収入は半分に。道路整備をして人通りができるようにしてほしい。お客さんも生活が厳しいのか、注文を少しずつ出す人が増えた。

●その他 008：燃料代の高騰のため経営状況はよくない。代金は値上げした。人口も減っている為、売上減。

●その他 009：農業。雇用促進事業で来ている。灯油価格高騰が一番の問題。商品販売でトレーやラップを使うので単価が上がってしまう。財政破綻後、商品の価格変動幅が変わった。かつて正月などの時期には商品の値段が上がったが今はあまり変わらない。思った月に思った収入が得られない。若者が働く場がないので苦しい。企業誘致しても若者がいないのでダメなのではないか。派遣やバスで近隣の人を連れてきている所もあるらしいが。雇用の確保が最優先。原油価格高騰に対して価格の補助や支援が欲しい。若い人の農業従事者が欲しいが、若い人は、農業は汚れる仕事なので寄り付かないのだろうか。

資料2 自由記述部分

回答事業者に番号をつけ（資料1でつけた番号とは関係ない）、以下の四項目の自由記述をまとめた。事業内容・業種についても最後の括弧内に示した。

- ①事業・業界の直面している問題
- ②原材料や仕入れ及び燃料等の価格の動向
- ③生活の困難や医療・年金保険に関する悩み、負担
- ④現在の営業・暮らしの上での苦労や悩み、市・道・国への要望など

【002】①地域的に高齢化が著しく、店に足を運んでくれないこと。歴史村などの遊園地が廃止以来、夏の観光客が著しく低下。冬はスキー客のスキー離れで客足は減少。②全てが値上がり状態（原料、燃料など）。と言ってメニュー価格を大幅には値上げできない。④夕張市の財政面において、緊急に対応できる予算も一切なく、また市内で以前から営業している土木・建設業の仕事面において、道や国は率先して事業をもたらす方向で援助する方法があるのではないかと！また国の色々な施設を夕張に持ってくる手立てはないのか！国や道には直接的また間接的に応援をもっとしていただきたい。市の人口はまだまだ減っていくのは目にえています。（飲食業）

【003】②集配が売上の70%以上のため、ガソリン代の価格が上がってしまい、顧客の減少で大変厳しい毎日です。④市長へ。これ以上人口が減ると生活がやっていけません。人口を増やす対策を1日も早く実行して下さい。国へ。灯油の価格を寒冷地用で考えて下さい。（クリーニング業）

【004】②下がることはないだろう。（家具販売）

【010】①消費の低迷に加え、2011年の自動車道開通により通行客（旅行客を含む）の激減が予想される。②ガソリン代の高騰により経費が増加。④厳寒の北海道での灯油高騰で、道民のほとんどの家庭の家計負担があまりにも大きすぎる（家庭のみならず企業も）。このままでは北海道経済がさらに低迷すると思う

れる。灯油価格の軽減策を要望することと致します。
(小売業)

【012】①量販店・通販の安売り。(家電販売)

【014】②全て値上がりで非常に困っている。(スーパー、小売業)

【016】①発注工事が少ない。②木材・鉄筋・燃料等すべて高値傾向。(土木建設業)

【017】①原材料の値上げが大変困っています。だからと言って単価を全部上げるとお客様にも答えが出るような気がして(ママ)値上げをせずに頑張っています。②これからまだ値上がりするようであれば、商品の価格も考えようかと思っています。③現在家族全員は健康なので、現実としては、実感はないのですが、これから私達も年金を頂く年齢になりますと負担を感じると思います。④私の店では地元のお客様が多いのですが、年間を通して観光客の方も3分の1ぐらいです。年に1度、必ず来て下さる方もいてなるべく定休日は決めていません。そのせいか仕事が楽しいです。夕張の大変な状態から2年目を迎え、人口減が1番厳しいです。夕張に住みたいけれども働く場が無い若い方達も、夕張に帰ってきたらホッとするそうです。夕張の石炭のおかげで日本の景気が良かったと聞いたとき、胸がジーンとしました。夕張の人は元気で大きな顔をしていいんだと言われた言葉を忘れず、これからの夕張で頑張ります。(喫茶店、飲食業)

【020】①これ以上収入が無い場合には営業をやめる。年間100万円の年金を借金返済にあてている。②在庫をしない。③夕張の人口が少なく仕事が非常にない。元の市長が借金をし、その転嫁・つけを市民に回す、とんでもない話だ！ また夕張市役所の課長以上が依頼退職というのは責任問題を問われるのは明らか。現市長もこの話は一切口に出さないという(一部判読不可能)。職員をだました。④現在はガソリンが高い！政府は何をしている。炭鉱が連鎖的にガス爆発を起こし、これも経営者と政府がしくんだことである。これについて警察は全然発表もせず、マスコミも途中でやめている。もっとTVでしっかりした真実を聞きたい。今の病院は一つの薬を頂くのにあれこれの薬漬けと検査が多く、お金をとることしか考えていない。うかつに病院に行かれない。(飲食業)

【021】①顧客にとって魅力ある店舗が少ないため栗山

町などの近く的大型店で買い物をする人が増えている。高齢者にとって市内路線バスの回数が少なくなったことが売上減になっている。(小売業、飲食業)

【022】①取引をしている問屋等の廃業又は倒産で仕入れに困難を生じることがある。(小売業)

【024】④確かに人口も激減していますし、お客様のお金に対する考えもまことにシビアになってきています。でもあまり新聞やテレビで騒ぎ立てられるとお客様も動揺してかえって風評被害におちいるような気がします。でも本当にこれからは私達商人もあまえず自分たちの生きる道を模索しなければならないと考えています。(洋品小売業)

【027】①安売り店の台頭により客単価の低迷。(小売業)

【028】①顧客の市外転出や買い控えが目立つ。また、顧客は高齢者が多いため亡くなるケースも続いている。②扱うものが、石油製品によるものが多いので、30～60%の価格上昇。今後とも下がる気配はみられない。④税金の無駄遣いをさらに厳しくチェックし減らすこと。特に道路特定財源について、使用する資金については、国民が納得できるよう十分に議論のうえ、必要なところには思い切り投入して住みよい国にして欲しい。これからの高齢化により高齢でも働ける環境も充実したらよいと思うが。。(クリーニング業)

【033】①市内の人口減で顧客が減り、売上が減少してきている。これからも厳しいのが現状。②諸物価の高騰(仕入れ原価)。売上価格の値上げはできない。④後継者(息子)がいるので営業を続けていきたいが、年々売上が減少してきている。人口減が一番だと考えます。人口の減少を止めなければならないと思います。企業誘致、そして魅力ある街づくりが必要。(飲食業)

【036】③国民年金だと少ないので困る。④夕張シェーバロガムが5年後に完成すると石油販売業も終わり。(石油販売業)

【038】①人口の減少が急激に進み、加えて高齢化による消費の落ち込みが大きい。燃料、原材料の高騰により苦しい経営状況にある。②大きく上昇した。(食品製造)

【045】①財政破綻以来、クライアントの広告出稿が激減。企画物の需要がゼロとなった。新聞社の他都市移

転などが続いており、この苦境を乗り切るため、支社に対し経営の応援を求めているのが現在の状況である。
 ④財政破綻に移行して以来、営業に暮らしに大変不安を感じて毎日を過ごしている。総合計画等のビジョンでは今後の夕張再生はありえない。夕張市民は一丸となって蜂起し、国と道に対して生活権を要求しなければ、今後の安定した営業、生活は皆無だ。(新聞販売業)

【048】①材料高。(電気工事業)

【050】①人口減少による顧客の減少。顧客の高齢化により、顧客の減少。②燃料等の高騰による経営危機。
 ④1年でも長く夕張で営業したいが現在の状態ではあと何年も夕張に居られるかわからない。国や道はもっと真剣に再建を考えて欲しい。財政破綻の責任は国の政策の過ちにもあると思う。(飲食業)

【052】①再建団体入り後、官公庁、学校への納品が全く無く、事業所もカタログ販売(ネット等)が多く、店売りの書籍のみに頼っている状況。②ガソリンの値上げによる仕入れの価格値上げ。倒産する業者が多いため支払いが全て現金支払いとなって、立て替え払いが多くなり、問屋の対応が悪くなって来ている。④農業等は国で保障されるが、商工業者は何の保障もなく、借入金をもっと返済しなければならぬ中で、支払いには年金から店への貸し付けをしている状況である。一般業者も夕張にて買い物をせず、カタログ販売や岩見沢等市外からの購入をしているところもある。予算を国から持ち出し、最終的に返済出来ないときには破産すれば良いといった中田市長の言葉をそのまま受け継ぎ、国が何とかしてくれると思って踏み切った甘さに腹が立つ。商工会議所も商工業者と連携して少しでも商工業者が良い方向に向いてくれるよう努力を望む。(小売業)

【055】①夕張市からの委託料(清掃業)の減少。②軽油等の燃料の値上がり。(清掃業)

【056】④医療機関の充実。交通機関の充実(特に路線バスの充実)。(事務代行業)

【057】①印刷業界全般が、パソコンなどの普及により低迷し続けている。当社の場合、官庁、三セクの比率が大きかったため打撃は大きかった。②原材料は15~20%値上がりしている。それよりもガソリン・灯油の値上がりのほうが影響が大きい。(印刷業)

【061】②仕入れるものが何度も値上がり、そのたびに困っています。お客さんが仕事の人が多く、また出勤もしていますので大変です。(飲食業)

【065】④人口が少ない。(小売業)

【066】①人口の減少、高齢化が著しい状況。劇的な環境の変化がない限り、市内で、市民に向けての営業は近い将来(1, 2年で)不可能の見通し。②仕入れや他の価格の高騰は実際に発生していて、全て売上に転嫁せざるを得ない。③現状の医療・年金保険の制度そのものに疑問を感じている。自分がその年齢に達した時点で正しく給付を受けられるのか? ④財政再建団体という特殊な地方にいて、このまま将来はあるのか? 現状では近い将来夕張は地図上から消滅してしまうような感じがする。とてもこのまま住み続けて営業を続けることは不可能。「北海道」も大赤字なのであまり期待していない。いっそのこと、国の直轄自治体みたいな形で国が直接夕張を運営してはどうか? 市長も議会もいらない、何の役にも立っていない。他の赤字自治体の「見せしめ」にするのなら、徹底的に特別扱いをしてみてもどうか? (小売業)

【067】③負担料を下げて欲しい。(飲食業)

【068】①事業をやっても採算がとれない。いつやめるかという段階である。(医薬品小売業)

【069】②人口減、夕張から流出したお客さん。また、鯊は毎日いただくものではないので、炭鉱がなくなってからは本当に大変です。燃料(冬)は店を開ける以上、灯油であたためておく。自分たちだけで、商売をしていなければ一枚でも衣服を重ね着ですネ! 大変ですよ! ④要望を書いてもどうなるものでもありませんが、私達二人もすでに60歳を過ぎ、妻もヒザ痛を抱え、痛み止めを毎日打ってパートです。いつどうなるかわかりませんが、子や孫に迷惑をかけないよう気をつけています。市に対しては、市議会議員は本当に必要なのでしょうか。各町内の委員が声を出して意見を言って、それで今の夕張は十分みなさん頑張っていますよ。乱筆乱文あしからず。(飲食業)

【071】①市全体の人口減少、町内の役所職員も転出のため、客人口が少なくなった。(食品等小売業)

【074】①大手葬儀社の地方参入⇒都市への貨幣流出。
 ④火葬場の老朽化、市委託業者のマイクロバス老朽化。

(葬祭業、小売業)

【075】①夕張自体の人口不足。人が外へ出て行き、夜の営業に影響している。②値上がりしている。④道と国は夕張を死に体にはしないで欲しい。(飲食業)

【076】①原材料ほか高騰にともない原材料の粗悪化。②原材料は20～30%値上がり。また当店は石炭を使用しています。値上がりで1tが3万円から4万円に。他市より搬入のため運送代の高騰。本年の灯油(石油)の高騰が心配です。③週に1度、腰痛のため札幌の病院に通院していますので、保険料の負担はまあ厳しいものがありますが、このくらいの負担はやむを得ないと思っています。④特にありません。再建団体の当市の住民として耐えねばならないと思いますので、特にございません。(飲食業)

【078】②一部高くなっている。(家電製品販売)

【079】②灯油価格の上昇。資材の価格上昇。④灯油等石油関係の価格の補助や支援。(農業)

【080】①CO₂、エコなど自然を大切にするのは良い事ですが、リサイクルなど大メーカーの取り組みは、消費者向けのポーズに過ぎない点も見受けられる。根本から考えなければならないと思う。②原油の値上げによりポリチューブも値上がりしているが、価格をそこまで上げきれない。④いつまで仕事ができることや、いつまで生きているやら。家庭菜園の畑に鹿が出て豆を食うやら、きつねも出る。蛇も出た。熊はまだ見ていないがそのうち見られるかもしれない。楽しみだ。夕張に居ても結構楽しくやっている。夕張にいるから、国の無策、道の頼りなさ、市の無責任さを経験させていただいております。自営業者をとりまく環境は、夕張のみならず大変だと思います。調査研究を行って住みよい町作りに頑張ってください。私も頑張ります。(製造業)

【082】①高齢化、人口減少。②金属の値上がり(5年前の2倍以上)。(医療)

【084】①大手小売全国チェーンの不当廉売による中小小売への圧迫など(特にビールなど)。夕張の観光業者の地元軽視。②大幅な値上がりで経費がかかり努力も限界。特に田舎は車がなければ身動きがとれない。③将来のために何が何でも払っています。④市役所の人が減り、それにともなって人口が減り、市の給料も

下がっているため、生活水準が下がり、夕張の店は大変であると感じています。道や国は市役所をいじめるだけではなく、この先、夕張が生きていけるようにお願いしたいと思います。(小売業)

【086】①他方面より業者が入ってきて、納入額が減っている。一番は人口減と、地区の高齢化。②ガソリン価格など配達機関(花の配達)にとっては大変です。(小売業)

【088】①市内での仕事がないため、市外に行くことが多く、ガソリン代がすごくかかる。冬は除雪をしているが、燃料代が高く、利益はほとんどない。④市も道も国も「何を言っても受け入れてくれない」というのが最大の悩みです。市が勝手に作った借金のために何故私たち市民がこんなに苦しい思いをしなければならないのでしょうか。財政再建団体になるまで市職員は殿様のような暮らしをしていました。少しは民間企業の苦しさを知るべきです。(土木業)

【089】①人口減少による客数減が止まらず、売上減少が避けられない。④私達が財政再建団体の市民としてある程度の負担を追わなければならないことは理解しているが、これ以上の人口流出を防ぐ方策をとっても変わらないと、この街で暮らそうと思っても、暮らせない状況に陥ってしまう。住民が減れば商店がなくなり、買い物ができなければ暮らすことができず、さらに住民が減るといふ悪循環が生まれかねないだろう。(コンビニ)

【090】④市内で買い物をする人が少なく、地方の大型店に客をとられています。(小売業)

【091】②値上がりのため、利益幅が少なくなったところ。③高血圧のため、病院での投薬を受けている。(菓子製造販売)

【092】①仕事の減少。②原材料や仕入れ値は上がりっぱなし。④来年以降の仕事があるか心配です。(建築業)

【093】①大型店との価格競争により利益が上がらず、生活に直接影響大であります。④店舗周囲の人口が減少のため、売上減が一番の悩みです。(小売業)

【095】④夕張には仕事がないため、従業員とともに本州へ出張しています。2ヶ月位をワンクルーとして、帰宅するのは1週間程度で、また出張に行く生活です。

もうやめたいのですが、従業員がいるのと、年金だけでは食べていけないからです。2年前に2500万円の不渡りがあり、倒産しそうになりましたが、兄弟達の協力で何とか仕事を続け現在も返済中です。やめられない理由の第一です。埼玉を中心として、新潟、青森、福島県と渡り鳥です。(建設工事)

【096】①高速道路の開通。冬期間の交通量・客の減少。経費の値上がり。②一度だけの値上がりではなく、またも値上がりをしてそれが当たり前という感じ。あきらめ。④売上1千万以上のものは消費税を国に納めなければならない、仕入れ、人件費、経費をひいて年収の少ないものは大変です。収入の多い少ないで決めるべきだと思う。(飲食業)

【097】④会社と人口減少。願いは人と会社を増やして欲しい。(飲食業)

【098】①事業拡大のため、従業員を募集しているが、人口減のためか、応募がない。燃料の値上げのため経費がかかる。②高騰している。しかも発注単価が上がらないので苦しい。④貴調査研究がよりよい成果となりますよう、祈っております。(電気工事業)

【099】①燃料高によるお客様の減少、道外からの団体旅行客の減少。2年後開通予定の道東自動車道による顧客の減。②全てにおいて以前よりも値上がりしまし

た。③支払う会社ももろう側も負担が大きい。④行政サービスの低下によって従業員がやめてしまうことだけは避けたい。現に子どもを持つパートさんは中学校の統廃合によって札幌へ行ってしまう。売上減に人材流出してしまえば、この先が不安。企業が無くなればまだまだ人口流出につながり、何も出来なくなってしまう。(飲食業)

【100】②子どもがいなくて玩具の売上減。3年前にはじめて喫茶店でカバー。喫茶店は材料の値上がりで今年5月にメニュー価格改正。③サラリーマン時代の厚生年金をわずかだが受け取っている。(小売業、飲食業)

【101】①市発注の委託料は20%程度の減額となり、今後もどのようになるのか、不安である。②軽油燃料は前々年に比べ倍価している。(運輸業)

【104】①夕張の人口減少と高齢化で商売も大変。厳しいところです。②ほとんどが外商のため、ガソリン代の値上がりが苦しい状況です。(小売業)

【105】④北海学園、北星学園のみなさん。夕張に来て下さり、有り難うございます。夕張にずっといられるよう、私達も努力と工夫をしていきたいと思っています。何とか人口が増えてくれればと思います。(自動車整備業)

資料3 タ張事業者調査結果一覧表

業種	全体	経営形態別		事業主の年齢別					業種別(例数が比較的多い業種のみ掲載)				単位: 事業者, %	
		個人経営		法人経営					製造 食品製造 建設				小売 飲食	
		103 100.0	43 100.0	60 100.0	8 13.3	1 9.1	3 10.0	32 100.0	28 100.0	28 100.0	42 100.0	13 100.0		
製造	8 7.8													
食品製造 (販売含む)	6 5.8	3	7.0	3	5.0	1 9.1	3 10.0	2 6.3	1 3.6					
建設	11 10.7	1	2.3	10	16.7	1 9.1	5 16.7	2 6.3	3 10.7					
運送	3 2.9													
小売	44 42.7	17	39.5	27	45.0	2 18.2	16 53.3	11 34.4	15 53.6					
飲食	13 12.6	11	25.6	2 3.3		1 9.1	4 13.3	7 21.9	1 3.6					
理美容	5 4.9													
自動車整備	4 3.9	2	4.7	2 3.3		1 9.1	1 3.3	1 3.1	2 7.1					
その他	9 8.7	4	9.3	5 8.3		3 27.3		3 9.4	3 10.7					
事業年数	100 100.0	43 100.0	57 100.0	11 100.0	29 100.0	30 100.0	30 100.0	28 100.0	28 100.0	8 100.0	6 100.0	10 100.0	42 100.0	13 100.0
～10年未満	8 8.0	3	7.0	5 8.8	3 27.3	3 10.3	1 3.3	1 3.6						
～20年未満	9 9.0	2	4.7	7 12.3	3 27.3	3 10.3	2 6.7	1 3.6						
～30年未満	20 20.0	10	23.3	10 17.5	1 9.1	6 20.7	7 23.3	4 14.3						
～40年未満	23 23.0	13	30.2	10 17.5		12 41.4	10 33.3	4 14.3						
～50年未満	17 17.0	2	4.7	15 26.3	1 9.1	3 10.3	4 13.3	9 32.1						
～60年未満	17 17.0	11	25.6	6 10.5	2 18.2	1 3.4	5 16.7	9 32.1						
60年以上	6 6.0	2	4.7	4 7.0	1 9.1	1 3.4	1 3.3	3 10.7						
経営形態	104 100.0													
個人経営	44 42.3													
法人経営	60 57.7													
後継者の有無	102 100.0	44 100.0	58 100.0	11 100.0	29 100.0	32 100.0	32 100.0	28 100.0	28 100.0	8 100.0	6 100.0	11 100.0	43 100.0	13 100.0
いる	34 33.3	8	18.2	26 44.8	4 36.4	9 31.0	7 21.9	13 46.4	5 62.5	1 16.7	7 63.6	12 27.9	4 30.8	
いない	68 66.7	36	81.8	32 55.2	7 63.6	20 69.0	25 78.1	15 53.6	3 37.5	5 83.3	4 36.4	31 72.1	9 69.2	
事業の継続意志	94 100.0	38 100.0	56 100.0	11 100.0	27 100.0	28 100.0	26 100.0	26 100.0	26 100.0	8 100.0	4 100.0	10 100.0	39 100.0	12 100.0
継続したい	38 40.4	11	28.9	27 48.2	7 63.6	8 29.6	10 35.7	12 46.2	5 62.5	2 50.0	4 40.0	11 28.2	5 41.7	
廃業も考えている	35 37.2	19	50.0	16 28.6		12 44.4	12 42.9	11 42.3	2 25.0		2 20.0	19 48.7	6 50.0	
分からない	21 22.3	8	21.1	13 23.2	4 36.4	7 25.9	6 21.4	3 11.5	1 12.5	2 50.0	4 40.0	9 23.1	1 8.3	
従業員の有無	103 100.0	44 100.0	59 100.0	11 100.0	29 100.0	32 100.0	29 100.0	29 100.0	29 100.0	8 100.0	6 100.0	11 100.0	43 100.0	13 100.0
使用していない	24 23.3	18	40.9	6 10.2		7 24.1	8 25.0	8 27.6	1 12.5	1 16.7	1 9.1	13 30.2	5 38.5	
使用している	79 76.7	26	59.1	53 89.8	11 100.0	22 75.9	24 75.0	21 72.4	7 87.5	5 83.3	10 90.9	30 69.8	8 61.5	
従業員の使用形態	102 100.0	44 100.0	58 100.0	10 100.0	29 100.0	32 100.0	29 100.0	29 100.0	29 100.0	7 100.0	6 100.0	11 100.0	43 100.0	13 100.0
家族のみ使用	24 23.5	18	40.9	6 10.3		7 24.1	8 25.0	8 27.6	1 14.3	1 16.7	1 9.1	13 30.2	5 38.5	
家族以外のみ使用	21 20.6	14	31.8	7 12.1		3 10.3	9 28.1	9 31.0	2 28.6	1 16.7	1 9.1	9 20.9	2 15.4	
家族も家族以外も使用	17 16.7	2	4.5	15 25.9	2 20.0	4 13.8	6 18.8	4 13.8	2 28.6	1 16.7	3 27.3	5 11.6		
家族も家族以外も使用	40 39.2	10	22.7	30 51.7	8 80.0	15 51.7	9 28.1	8 27.6	2 28.6	3 50.0	6 54.5	16 37.2	6 46.2	

資料3 夕張事業者調査結果一覧表

	全体	経営形態別		事業主の年齢別				業種別(例数が比較的多い業種のみ掲載)					単位:事業者, %
		個人経営 法人経営		50歳未満 50代 60代 70歳以上				製造 食品製造 建設 小売 飲食					
		44 100.0	58 100.0	10 100.0	29 100.0	32 100.0	29 100.0	7 100.0	6 100.0	11 100.0	43 100.0	13 100.0	
使用人数		24 23.5	18 40.9	6 10.3	7 24.1	8 25.0	8 27.6	1 14.3	1 16.7	1 9.1	13 30.2	5 38.5	
0人		20 19.6	13 29.5	7 12.1	3 10.3	10 31.3	7 24.1	2 28.6			8 18.6	2 15.4	
1人		11 10.8	5 11.4	6 10.3	3 10.3	5 15.6	3 10.3				7 16.3	1 7.7	
2人		15 14.7	5 11.4	10 17.2	3 30.0	6 20.7	3 9.4	3 10.3	1 14.3	1 16.7	1 9.1	6 14.0	3 23.1
3.4人		16 15.7	2 4.5	14 24.1	2 20.0	6 20.7	3 9.4	4 13.8	1 14.3	2 33.3	4 36.4	5 11.6	1 7.7
5~9人		16 15.7	1 2.3	15 25.9	5 50.0	4 13.8	3 9.4	4 13.8	2 28.6	1 16.7	4 36.4	4 9.3	1 7.7
10人以上													
現在の経営状況		98 100.0	42 100.0	56 100.0	9 100.0	29 100.0	31 100.0	27 100.0	6 100.0	6 100.0	10 100.0	42 100.0	13 100.0
良い		1 1.0	1 2.4		1 11.1	2 6.5	2 6.5	1 3.7					
やや良い		3 3.1	2 4.8	1 1.8	2 22.2	7 24.1	7 22.6	8 29.6	2 33.3	1 16.7	3 30.0	10 23.8	3 23.1
そこそこ		26 26.5	11 26.2	15 26.8	3 33.3	9 31.0	7 22.6	4 14.8	2 33.3	1 16.7	3 30.0	9 21.4	5 38.5
やや悪い		23 23.5	9 21.4	14 25.0	3 33.3	13 44.8	15 48.4	14 51.9	2 33.3	2 33.3	4 40.0	23 54.8	4 30.8
悪い		45 45.9	19 45.2	26 46.4	3 33.3	13 44.8	15 48.4	14 51.9	2 33.3	2 33.3	4 40.0	23 54.8	4 30.8
売上の変化(対2006年比)		98 100.0	41 100.0	57 100.0	9 100.0	29 100.0	31 100.0	27 100.0	7 100.0	6 100.0	10 100.0	42 100.0	13 100.0
増加		3 3.1	2 4.9	1 1.8	1 11.1	3 10.3	4 12.9	1 3.7	3 42.9	3 50.0		2 4.8	1 7.7
横ばい		10 10.2	3 7.3	7 12.3	2 22.2	5 17.2	5 16.1	1 3.7	4 57.1	1 16.7	6 60.0	21 50.0	4 30.8
1割以内の減		13 13.3	9 22.0	4 7.0	6 66.7	14 48.3	9 29.0	14 51.9	4 57.1	1 16.7	6 60.0	21 50.0	4 30.8
3割以内の減		43 43.9	14 34.1	29 50.9	6 66.7	14 48.3	9 29.0	14 51.9	4 57.1	1 16.7	6 60.0	21 50.0	4 30.8
5割以内の減		10 10.2	5 12.2	5 8.8	2 6.9	5 16.1	3 11.1	3 11.1	1 10.0	4 9.5	1 10.0	4 9.5	1 7.7
5割超の減		19 19.4	8 19.5	11 19.3	3 33.3	8 25.8	8 25.8	8 29.6	1 16.7	3 30.0	9 21.4	3 23.1	
(再増) 3割超の減		29.6	31.7	28.1	17.2	41.9	40.7		16.7	40.0	31.0	30.8	
昨年の年間売上(受注)高		93 100.0	40 100.0	53 100.0	9 100.0	27 100.0	29 100.0	26 100.0	5 100.0	6 100.0	10 100.0	40 100.0	12 100.0
500万円未満		15 16.1	15 37.5		3 11.1	6 20.7	6 23.1	1 16.7	1 20.0	1 16.7	5 12.5	4 33.3	
~1000万円未満		14 15.1	10 25.0	4 7.5	3 11.1	10 34.5	1 3.8	1 20.0	1 20.0	1 10.0	4 10.0	2 16.7	
~3000万円未満		19 20.4	6 15.0	13 24.5	6 22.2	3 10.3	10 38.5	1 20.0	1 20.0		13 32.5	3 25.0	
~5000万円未満		16 17.2	6 15.0	10 18.9	1 11.1	3 11.1	7 24.1	5 19.2	1 20.0	2 33.3	3 30.0	7 17.5	2 16.7
~1億円未満		8 8.6	2 5.0	6 11.3	4 44.4	3 11.1	1 3.8	1 3.8	2 40.0	2 33.3	4 40.0	7 17.5	
1億円以上		21 22.6	1 2.5	20 37.7	4 44.4	9 33.3	3 10.3	3 11.5	2 40.0	2 33.3	2 20.0	11 27.5	1 8.3
昨年の所得(利益)		86 100.0	40 100.0	46 100.0	8 100.0	25 100.0	26 100.0	26 100.0	3 100.0	5 100.0	10 100.0	38 100.0	11 100.0
200万円未満		32 37.2	20 50.0	12 26.1	4 16.0	12 46.2	15 57.7	1 20.0	2 20.0	2 20.0	16 42.1	2 18.2	
200~300万円未満		12 14.0	6 15.0	6 13.0	1 12.5	4 16.0	5 19.2	2 7.7			9 23.7	3 27.3	
300~500万円未満		21 24.4	10 25.0	11 23.9	1 12.5	9 36.0	6 23.1	5 19.2	2 66.7	1 20.0	3 30.0	7 18.4	4 36.4
500~1000万円未満		14 16.3	1 2.5	13 28.3	4 50.0	5 20.0	2 7.7	3 11.5	1 33.3	1 20.0	5 50.0	3 7.9	1 9.1
1000万円以上		7 8.1	3 7.5	4 8.7	2 25.0	3 12.0	1 3.8	1 3.8	2 40.0	2 40.0	3 7.9	1 9.1	
消費税の転嫁状況		82 100.0	36 100.0	46 100.0	7 100.0	23 100.0	27 100.0	24 100.0	5 100.0	6 100.0	7 100.0	38 100.0	8 100.0
完全にできている		40 48.8	13 36.1	27 58.7	6 85.7	11 47.8	11 40.7	11 45.8	5 100.0	3 50.0	4 57.1	18 47.4	3 37.5
部分的にできている		27 32.9	14 38.9	13 28.3	10 43.5	9 33.3	8 33.3	8 33.3	2 33.3	2 28.6	14 36.8	2 25.0	
全くできていない		15 18.3	9 25.0	6 13.0	1 14.3	2 8.7	7 25.9	5 20.8	1 16.7	1 14.3	6 15.8	3 37.5	
借入金の有無		98 100.0	43 100.0	55 100.0	9 100.0	28 100.0	31 100.0	28 100.0	6 100.0	6 100.0	10 100.0	42 100.0	13 100.0
ない		49 50.0	27 62.8	22 40.0	2 22.2	12 42.9	18 58.1	16 57.1	2 33.3	3 50.0	2 20.0	20 47.6	7 53.8
ある		49 50.0	16 37.2	33 60.0	7 77.8	16 57.1	13 41.9	12 42.9	4 66.7	3 50.0	8 80.0	22 52.4	6 46.2

資料3 タ張事業者調査結果一覧表

	全体	経営形態別			事業主の年齢別					業種別(例数が比較的多い業種のみ掲載)							単位:事業者、%											
		個人経営			法人経営		50歳未満					50代		60代		70歳以上		製造		食品製造		建設		小売		飲食		
		個人経営	法人経営	50歳未満	50代	60代	70歳以上	製造	食品製造	建設	小売	飲食																
借入金の残高	41	100.0	6	14.6	6	46.2	13	100.0	28	100.0	7	100.0	12	100.0	10	100.0	12	100.0	7	100.0	18	100.0	5	100.0	4	22.2	2	40.0
200万円未満	11	26.8	4	30.8	7	25.0	2	28.6	2	16.7	4	40.0	3	25.0	5	41.7	1	50.0	1	33.3	1	14.3	4	22.2	2	40.0		
500万円未満	10	24.4	2	15.4	8	28.6	2	28.6	2	16.7	1	10.0	5	41.7			1	50.0	1	33.3	2	14.3	3	22.2	2	40.0		
1000万円未満	8	19.5	1	7.7	7	25.0	2	28.6	5	41.7	1	10.0					1	50.0	1	33.3	3	22.2	5	27.8				
3000万円未満	5	12.2	1	7.7	5	17.9	1	14.3	1	8.3	1	10.0	2	16.7			1	50.0	1	33.3	3	22.2	4	22.2				
1億円未満	1	2.4	1	7.7	5	17.9	1	14.3	1	8.3	1	10.0	2	16.7			1	50.0	1	33.3	1	14.3	1	5.6	1	20.0		
1億円以上	1	2.4	1	7.7	5	17.9	1	14.3	1	8.3	1	10.0	2	16.7			1	50.0	1	33.3	1	14.3	1	5.6	1	20.0		
借入先(複数回答可)	48	100.0	16	100.0	32	100.0	7	100.0	15	100.0	13	100.0	12	100.0	1	8.3	4	100.0	3	100.0	8	100.0	21	100.0	6	100.0	1	4.8
自治体の融資	1	2.1	1	3.1	3	9.4	3	42.9	8	53.3	12	92.3	6	50.0			3	75.0	2	66.7	6	75.0	11	52.4	4	66.7		
国民生活金融公庫	30	62.5	12	75.0	18	56.3	3	42.9	8	53.3	12	92.3	6	50.0			3	75.0	2	66.7	6	75.0	11	52.4	4	66.7		
都市銀行	1	2.1	1	3.1	3	9.4	3	42.9	8	53.3	12	92.3	6	50.0			3	75.0	2	66.7	6	75.0	11	52.4	4	66.7		
地方銀行	9	18.8	9	28.1	9	28.1	2	28.6	3	20.0	1	7.7	3	25.0			1	25.0	1	33.3	2	25.0	3	14.3	1	16.7		
信用金庫・信用組合	21	43.8	6	37.5	15	46.9	2	28.6	10	66.7	4	30.8	5	41.7			1	25.0	1	33.3	5	62.5	12	57.1	2	33.3		
サラ金・商工ローン・クレジット	2	4.2	2	12.5	1	6.3	5	15.6	1	14.3	4	26.7	2	15.4			1	25.0	1	33.3	5	62.5	12	57.1	2	33.3		
その他	6	12.5	1	6.3	5	15.6	1	14.3	4	26.7	2	15.4	1	8.3			1	25.0	1	33.3	5	62.5	12	57.1	2	33.3		
借入金の返済状況	48	100.0	16	100.0	32	100.0	7	100.0	15	100.0	13	100.0	12	100.0			4	100.0	3	100.0	8	100.0	21	100.0	6	100.0		
順調に返済している	14	29.2	2	12.5	12	37.5	5	71.4	5	33.3	2	15.4	1	8.3			3	75.0	2	66.7	2	25.0	3	14.3	2	33.3		
苦しいがなんとか返済している	28	58.3	12	75.0	16	50.0	2	28.6	8	53.3	9	69.2	9	75.0			1	25.0	1	33.3	4	50.0	16	76.2	4	66.7		
条件を変更して返済している	2	4.2	2	12.5	1	6.3	1	14.3	1	6.7	1	7.7	1	8.3			1	25.0	1	33.3	4	50.0	16	76.2	4	66.7		
滞っている	4	8.3	2	12.5	2	6.3	1	14.3	1	6.7	1	7.7	1	8.3			1	25.0	1	33.3	4	50.0	16	76.2	4	66.7		
事業・業界の直面している問題(複数回答可)	98	100.0	42	100.0	56	100.0	9	100.0	29	100.0	30	100.0	28	100.0			6	100.0	6	100.0	10	100.0	43	100.0	13	100.0		
(ア)消費・需要の減少	52	53.1	15	35.7	37	66.1	4	44.4	17	58.6	17	56.7	14	50.0			4	66.7	5	83.3	4	40.0	31	72.1	5	38.5		
(イ)顧客(人口)の減少	80	81.6	36	85.7	44	78.6	7	77.8	23	79.3	27	90.0	22	78.6			3	50.0	3	50.0	5	50.0	40	93.0	12	92.3		
(ウ)発注単価の切り下げ	13	13.3	2	4.8	11	19.6	1	11.1	3	10.3	4	13.3	4	14.3			2	33.3	1	16.7	6	60.0	2	4.7	1	7.7		
(エ)原材料や仕入れの高騰	41	41.8	19	45.2	22	39.3	4	44.4	12	41.4	16	53.3	8	28.6			3	50.0	5	83.3	4	40.0	14	32.6	11	84.6		
(オ)燃料など経費の値上がり	56	57.1	24	57.1	32	57.1	6	66.7	15	51.7	21	70.0	14	50.0			4	66.7	4	66.7	7	70.0	17	39.5	11	84.6		
(カ)不正な契約の強要	15	15.3	6	14.3	9	16.1	1	11.1	4	13.8	1	3.3	8	28.6			3	50.0			2	20.0	6	14.0				
(キ)業者間のダンピング	6	6.1	3	7.1	3	5.4	1	11.1	1	3.4	1	3.3	4	14.3														
(ク)業者の経営努力の不足	1	1.0	1	7.7	1	3.1	1	14.3	1	6.7	1	3.3	1	3.3														
(ケ)その他	1	1.0	1	7.7	1	3.1	1	14.3	1	6.7	1	3.3	1	3.3														
事業者・会員間の交流の状況	97	100.0	41	100.0	56	100.0	9	100.0	29	100.0	30	100.0	27	100.0			6	100.0	6	100.0	10	100.0	43	100.0	12	100.0		
頻繁にある	13	13.4	7	17.1	6	10.7	2	20.0	6	20.0	5	16.7	5	18.5			1	16.7	1	16.7	1	10.0	5	11.6				
たまにある	52	53.6	13	31.7	39	69.6	8	88.9	19	65.5	10	33.3	13	48.1			3	50.0	3	50.0	8	80.0	25	58.1	6	50.0		
全くない	32	33.0	21	51.2	11	19.6	1	11.1	8	27.6	14	46.7	9	33.3			2	33.3	3	50.0	1	10.0	13	30.2	6	50.0		
同、交流の希望	78	100.0	34	100.0	44	100.0	8	100.0	26	100.0	25	100.0	18	100.0			6	100.0	5	100.0	9	100.0	35	100.0	11	100.0		
非常にある	8	10.3	3	8.8	5	11.4	2	25.0	4	15.4	1	4.0	1	5.6			1	20.0	1	20.0	1	11.1	2	5.7	3	27.3		
まあある	35	44.9	8	23.5	27	61.4	4	50.0	14	53.8	10	40.0	7	38.9			3	50.0	2	40.0	6	66.7	18	51.4	1	9.1		
全くない	35	44.9	23	67.6	12	27.3	2	25.0	8	30.8	14	56.0	10	55.6			3	50.0	2	40.0	2	22.2	15	42.9	7	83.6		

資料3 夕張事業者調査結果一覧表

	全体	経営形態別		事業主の年齢別					業種別(例数が比較的多い業種のみ掲載)					単位:事業者, %									
		個人経営		法人経営		50代					製造 食品製造 建設												
		39	100.0	54	100.0	9	100.0	29	100.0	28	100.0	6	100.0		10	100.0	43	100.0					
一日の就業時間	8時間未満	13	14.0	7	17.9	6	11.1	4	13.8	4	14.3	5	19.2	1	16.7	16.7	4	40.0	4	9.3	1	8.3	
	8時間台	24	25.8	5	12.8	19	35.2	5	55.6	7	24.1	6	23.1	3	50.0	16.7	4	40.0	6	14.0	4	33.3	
	9時間台	11	11.8	5	12.8	6	11.1	8	27.6	1	3.6	2	7.7	1	16.7	16.7	2	20.0	6	14.0	1	8.3	
	10時間台	18	19.4	9	23.1	9	16.7	2	22.2	2	6.9	8	28.6	5	19.2	1	16.7	2	33.3	3	7.0		
	11時間台	6	6.5	4	10.3	2	3.7	1	3.4	3	10.7	2	7.7	1	16.7	16.7	1	16.7	8	18.6			
	12時間台	11	11.8	2	5.1	9	16.7	4	44.4	4	13.8	3	10.7	4	15.4	1	16.7	1	16.7	5	11.6	3	25.0
13時間超	10	10.8	7	17.9	3	5.6	2	22.2	3	10.3	3	10.7	2	7.7	1	16.7	1	16.7	5	11.6	3	25.0	
(再掲) 10時間以上	48.4		56.4	42.6	44.4		33.3	33.3	27.6	27.6	32.1	32.1	32.1	32.1	62.8		50.0						
一ヶ月の休日数	全くなし	96	100.0	41	100.0	55	100.0	9	100.0	29	100.0	29	100.0	28	100.0	6	100.0	6	100.0	10	100.0	43	100.0
	1日	18	18.8	10	24.4	8	14.5	1	11.1	7	24.1	4	13.8	6	21.4	2	33.3	2	33.3	13	30.2	2	16.7
	2日	1	1.0			1	1.8									1	16.7	1	16.7				
	3日	9	9.4	5	12.2	4	7.3	2	22.2	1	3.4	3	10.3	3	10.7	1	16.7	1	16.7	3	7.0	3	25.0
	4日	6	6.3	3	7.3	3	5.5	1	3.4	4	13.8	3	10.7	2	7.7	1	16.7	2	33.3	4	40.0	21	48.8
	5日以上	39	40.6	14	34.1	25	45.5	5	55.6	13	44.8	8	27.6	13	46.4	2	33.3	3	50.0	6	60.0	4	9.3
(再掲) 2日以下	29.2		36.6	23.6	33.3		33.3	33.3	27.6	27.6	32.1	32.1	32.1	32.1	66.7		41.7						
世帯における収入源の有無	なし	95	100.0	41	100.0	54	100.0	9	100.0	27	100.0	30	100.0	28	100.0	6	100.0	6	100.0	9	100.0	42	100.0
	あり	38	40.0	12	29.3	26	48.1	7	77.8	17	63.0	8	26.7	5	17.9	4	66.7	4	66.7	6	66.7	15	35.7
	不明	57	60.0	29	70.7	28	51.9	2	22.2	10	37.0	22	73.3	23	82.1	2	33.3	5	83.3	3	33.3	27	64.3
世帯の収入源(複数回答可)	就業以外の就業収入	57	100.0	29	100.0	28	100.0	2	100.0	10	100.0	22	100.0	23	100.0	2	100.0	5	100.0	3	100.0	27	100.0
	家賃・地代	10	17.5	7	24.1	3	10.7	1	50.0	4	40.0	5	22.7	1	4.3	1	20.0	3	30.0	3	11.1	4	57.1
	本人や家族の年金収入	6	10.5	1	3.4	5	17.9	1	50.0	4	40.0	5	22.7	1	4.3	2	40.0	1	10.0	2	66.7	22	81.5
	その他	42	73.7	22	75.9	20	71.4	3	30.0	16	72.7	23	100.0	2	100.0	2	100.0	2	40.0	2	40.0	1	3.7
暮らしの状況	毎月赤字	90	100.0	39	100.0	51	100.0	9	100.0	23	100.0	30	100.0	27	100.0	6	100.0	6	100.0	8	100.0	39	100.0
	毎月黒字	10	11.1	5	12.8	5	9.8	3	13.0	4	13.3	3	11.1	1	16.7	1	16.7	1	16.7	1	16.7	12.5	4
	赤字の月のほうが多い	25	27.8	11	28.2	14	27.5	9	39.1	9	30.0	7	25.9	2	33.3	2	33.3	2	33.3	2	33.3	13	33.3
	毎月、収支がほぼ同じ(収支トントン)	35	38.9	14	35.9	21	41.2	4	44.4	9	39.1	10	33.3	12	44.4	5	83.3	1	16.7	3	37.5	16	41.0
	黒字の月のほうが多い	7	7.8	5	12.8	2	3.9	2	8.7	4	13.3	1	3.7	1	16.7	1	16.7	1	16.7	1	16.7	2.6	2
	毎月黒字、分らない	6	6.7	2	5.1	4	7.8	4	44.4	4	13.3	1	3.7	1	16.7	1	16.7	1	16.7	1	16.7	12.5	5
(再掲) 赤字計	7	7.8	2	5.1	5	9.8	1	11.1	2	6.7	3	11.1	1	16.7	1	16.7	1	16.7	1	16.7	12.5	3	
	38.9						52.2		43.3		37.0		37.0		50.0		37.5		50.0		43.6	46.2	

資料3 タ張事業者調査結果一覧表

	全体	経営形態別		事業主の年齢別					業種別(例数が比較的多い業種のみ掲載)							単位:事業者, %
		個人経営	法人経営	50歳未満	50代	60代	70歳以上		製造	食品製造	建設	小売	飲食			
医療保険の種類	91 100.0	39 100.0	52 100.0	9 100.0	27 100.0	29 100.0	25 100.0		6 100.0	6 100.0	9 100.0	40 100.0	12 100.0			
国民健康保険	52 57.1	37 94.9	15 28.8	1 11.1	9 33.3	22 75.9	20 80.0		2 33.3	3 50.0	3 33.3	22 55.0	9 75.0			
建設国保	1 1.1	1 1.1	1 1.9		1 3.7							1 2.5				
社会保険(健康保険)	38 41.8	2 5.1	36 69.2	8 88.9	17 63.0	7 24.1	5 20.0		4 66.7	3 50.0	6 66.7	17 42.5	3 25.0			
国庫料(税)の滞り 納状況	52 100.0	37 100.0	15 100.0	1 100.0	9 100.0	22 100.0	20 100.0		2 100.0	3 100.0	3 100.0	22 100.0	9 100.0			
ある	2 3.8	2 5.4			1 11.1	1 4.5						1 4.5				
ない	50 96.2	35 94.6	15 100.0	1 100.0	8 88.9	21 95.5	20 100.0		2 100.0	3 100.0	3 100.0	21 95.5	9 100.0			
保険証の種類	52 100.0	37 100.0	15 100.0	1 100.0	9 100.0	22 100.0	20 100.0		2 100.0	3 100.0	3 100.0	22 100.0	9 100.0			
正規保険証	52 100.0	37 100.0	15 100.0	1 100.0	9 100.0	22 100.0	20 100.0		2 100.0	3 100.0	3 100.0	22 100.0	9 100.0			
世帯全体の年間 国庫料(税)	46 100.0	33 100.0	13 100.0		9 100.0	20 100.0	17 100.0		2 100.0	2 100.0	2 100.0	20 100.0	8 100.0			
～10万円未満	3 6.5	1 3.0	2 15.4			1 5.0	2 11.8					3 15.0				
～20万円未満	13 28.3	11 33.3	2 15.4		2 22.2	5 25.0	6 35.3					7 35.0	2 25.0			
～30万円未満	8 17.4	6 18.2	2 15.4		1 11.1	5 25.0	2 11.8		1 50.0			3 15.0	1 12.5			
～40万円未満	6 13.0	4 12.1	2 15.4		3 33.3	2 10.0	1 5.9		1 50.0	1 50.0		1 5.0	2 25.0			
～50万円未満	6 13.0	4 12.1	2 15.4		1 11.1	3 15.0	2 11.8				2 100.0	1 5.0	1 12.5			
50万円以上	10 21.7	7 21.2	3 23.1		2 22.2	4 20.0	4 23.5		1 50.0			5 25.0	2 25.0			
国庫料(税)の負担 感	50 100.0	36 100.0	14 100.0	1 100.0	9 100.0	22 100.0	18 100.0		2 100.0	3 100.0	3 100.0	20 100.0	9 100.0			
非常に厳しい	29 58.0	20 55.6	9 64.3		6 66.7	13 59.1	10 55.6		2 66.7	2 66.7	11 55.0	6 66.7				
まあ厳しい	17 34.0	12 33.3	5 35.7		3 33.3	8 36.4	6 33.3		2 100.0	1 33.3	1 33.3	3 33.3	3 33.3			
あまり厳しくない	4 8.0	4 11.1		1 100.0		1 4.5	2 11.1					3 15.0				
社保・建設国保 料の滞納状況	36 100.0	2 100.0	34 100.0	8 100.0	17 100.0	6 100.0	4 100.0		4 100.0	3 100.0	6 100.0	15 100.0	3 100.0			
ある	1 2.8	1 2.9			1 5.9							1 6.7				
ない	35 97.2	2 100.0	33 97.1	8 100.0	16 94.1	6 100.0	4 100.0		4 100.0	3 100.0	6 100.0	14 93.3	3 100.0			
社保・建設国保 料の負担感	34 100.0	1 100.0	33 100.0	8 100.0	16 100.0	6 100.0	3 100.0		4 100.0	3 100.0	6 100.0	13 100.0	3 100.0			
非常に厳しい	13 38.2	1 100.0	12 36.4	2 25.0	9 56.3	1 16.7	1 33.3		2 66.7	4 66.7	3 23.1	3 23.1	3 100.0			
まあ厳しい	17 50.0	1 100.0	17 51.5	4 50.0	6 37.5	4 66.7	2 66.7		3 75.0	1 33.3	2 33.3	7 53.8				
あまり厳しくない	4 11.8	4 12.1		2 25.0	1 6.3	1 16.7			1 25.0			3 23.1				
年金保険の種類	92 100.0	39 100.0	53 100.0	9 100.0	27 100.0	29 100.0	26 100.0		6 100.0	6 100.0	9 100.0	41 100.0	12 100.0			
国民年金	24 26.1	22 56.4	2 3.8	1 11.1	8 29.6	13 44.8	2 7.7		1 16.7	2 33.3	3 33.3	9 22.0	8 66.7			
厚生年金	34 37.0	2 5.1	32 60.4	8 88.9	19 70.4	4 13.8	2 7.7		4 66.7	3 50.0	7 77.8	14 34.1	3 25.0			
公的年金には加入していない	1 1.1	1 1.1	1 1.9		1 3.7											
すでに年金を受け取っている	33 35.9	15 38.5	18 34.0			12 41.4	21 80.8		1 16.7	1 16.7	2 22.2	18 43.9	1 8.3			
国民年金保険料 の滞納状況	23 100.0	20 100.0	3 100.0	2 100.0	8 100.0	11 100.0	2 100.0		1 100.0	2 100.0		9 100.0	7 100.0			
ある	4 17.4	3 15.0	1 33.3		4 50.0				1 100.0			2 22.2				
ない	18 78.3	16 80.0	2 66.7	2 100.0	4 50.0	10 90.9	2 100.0			2 100.0		6 66.7	7 100.0			
免除してもらっている	1 4.3	1 5.0				1 9.1						1 11.1				
国民年金保険料 の負担感	20 100.0	18 100.0	2 100.0	2 100.0	7 100.0	9 100.0	2 100.0		1 100.0	1 100.0		8 100.0	6 100.0			
非常に厳しい	9 45.0	9 50.0			4 57.1	4 44.4	1 50.0					5 62.5	2 33.3			
まあ厳しい	8 40.0	6 33.3	2 100.0	1 50.0	2 28.6	5 55.6			1 100.0	1 100.0		1 12.5	4 66.7			
あまり厳しくない	3 15.0	3 16.7		1 50.0	1 14.3		1 50.0					2 25.0				

資料3 夕張事業者調査結果一覧表

健康状態	全体	経営形態別		事業主の年齢別				業種別(例数が比較的多い業種のみ掲載)				単位:事業者、%												
		個人経営	法人経営	50歳未満		70歳以上		製造	食品製造	建設	小売		飲食											
非常に健康である	9	9.0	42	100.0	58	100.0	11	100.0	30	100.0	31	100.0	27	100.0	8	100.0	6	100.0	11	100.0	42	100.0	13	100.0
まあ健康である	68	68.0	25	59.5	43	74.1	7	63.6	26	86.7	16	51.6	18	66.7	7	87.5	5	83.3	6	54.5	31	73.8	4	30.8
やや不調である	18	18.0	9	21.4	9	15.5	1	9.1	2	6.7	8	25.8	7	25.9					4	36.4	8	19.0	6	46.2
非常に不調である	2	2.0	1	2.4	1	1.7					2	6.5			1	12.5								
健康であるとも不調であるともいえない	3	3.0	2	4.8	1	1.7					3	9.7								1	2.4	2	15.4	
疲労の回復状況	98	100.0	42	100.0	56	100.0	10	100.0	30	100.0	30	100.0	27	100.0	8	100.0	6	100.0	11	100.0	41	100.0	13	100.0
1晩睡眠をとればよい疲労は回復する	35	35.7	17	40.5	18	32.1	4	40.0	11	36.7	6	20.0	14	51.9	1	12.5	3	50.0	4	36.4	17	41.5		
翌朝に前日の疲労を持ちこすことがときどきある	42	42.9	18	42.9	24	42.9	4	40.0	13	43.3	14	46.7	10	37.0	6	75.0	2	33.3	3	27.3	17	41.5	10	76.9
翌朝に前日の疲労を持ちこすことがよくある	13	13.3	5	11.9	8	14.3	2	20.0	5	16.7	5	16.7	1	3.7	1	12.5			2	18.2	4	9.8	3	23.1
翌朝に前日の疲労をいつも持ちこしている	8	8.2	2	4.8	6	10.7			1	3.3	5	16.7	2	7.4			1	16.7	2	18.2	3	7.3		
持病(医師から診断されたものの、複数回答可)	101	100.0	43	100.0	58	100.0	11	100.0	30	100.0	31	100.0	28	100.0	8	100.0	6	100.0	11	100.0	43	100.0	13	100.0
胃腸病	5	5.0	2	4.7	3	5.2	1	9.1			3	9.7	1	3.6	1	12.5			1	9.1	1	2.3	1	7.7
高血圧	27	26.7	15	34.9	12	20.7			3	10.0	12	38.7	12	42.9	1	12.5	3	50.0	2	18.2	13	30.2	3	23.1
肝臓病	1	1.0			1	1.7	1	9.1							1	12.5								
腎臓病	1	1.0	1	2.3							1	3.2										1	7.7	
心臓病	9	8.9	7	16.3	2	3.4			1	3.3	3	9.7	5	17.9	1	12.5			1	9.1	6	14.0	1	7.7
糖尿病	8	7.9	1	2.3	7	12.1			2	6.7	3	9.7	3	10.7	1	12.5			2	18.2	4	9.3		
腰痛	20	19.8	7	16.3	13	22.4	1	9.1	3	10.0	7	22.6	9	32.1					3	27.3	12	27.9	2	15.4
高脂血症・高コレステロール血症	13	12.9	6	14.0	7	12.1			1	3.3	5	16.1	7	25.0	1	12.5	1	16.7	2	18.2	5	11.6	1	7.7
その他	8	7.9	3	7.0	5	8.6			1	3.3	6	19.4	1	3.6	1	12.5			3	27.3	2	4.7	2	15.4
健康診断の受診状況	98	100.0	42	100.0	56	100.0	11	100.0	29	100.0	31	100.0	26	100.0	8	100.0	6	100.0	11	100.0	40	100.0	13	100.0
毎年必ず受けている	51	52.0	19	45.2	32	57.1	4	36.4	12	41.4	18	58.1	16	61.5	7	87.5	3	50.0	11	100.0	14	35.0	5	38.5
受診しない年もあるがほぼ毎年受けている	12	12.2	5	11.9	7	12.5	2	18.2	4	13.8	2	6.5	4	15.4					8	20.0	1	7.7		
2,3年に1回程度	11	11.2	4	9.5	7	12.5	2	18.2	2	6.9	5	16.1	2	7.7			2	33.3			6	15.0	2	15.4
それ以下の受診頻度	24	24.5	14	33.3	10	17.9	3	27.3	11	37.9	6	19.4	4	15.4	1	12.5	1	16.7			12	30.0	5	38.5